

史跡高遠城跡試掘調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか

埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

長野県上伊那郡高遠町教育委員会

史跡高遠城跡試掘調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか

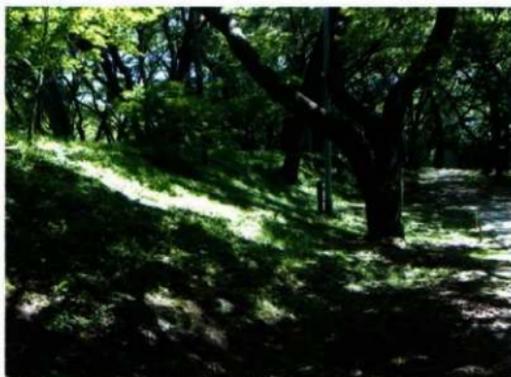
埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

長野県上伊那郡高遠町教育委員会



1. 第1-1トレンチ 堀調査前



2. 第2-1トレンチ 土壘調査前



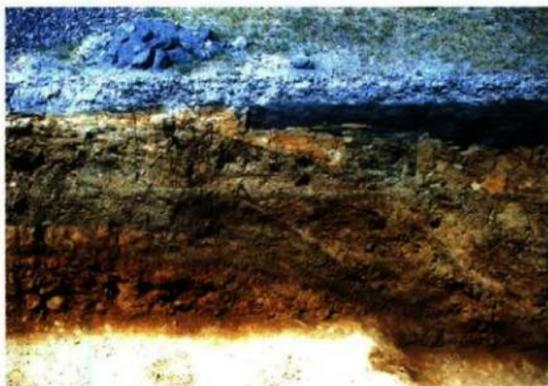
3. ニノ丸 土壘・堀現状



4. 第2-2トレンチ 堀の状況（南から）



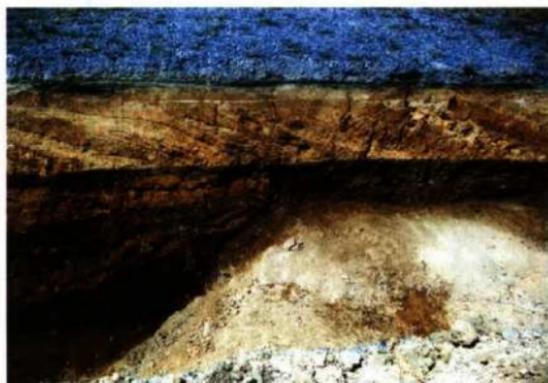
5. 第2-1トレンチ 土壘基底部遺構の状況（西から）



6. 第3トレンチ 掘土層断面 (第12図6)



7. 第3トレンチ 掘土層断面 (第12図7)



8. 第3トレンチ 掘土層断面 (第12図8)



9. 第4トレンチ 掘土層断面 (第13図9)



10. 第4トレンチ 坑列の状況



11. 第4トレンチ 遺物の出土状況



12. 第1トレンチ出土遺物



13. 第2-1トレンチ出土遺物



14. 第2-2トレンチ出土遺物



15. 第2-3トレンチ出土遺物



16. 第3トレンチ出土遺物



17. 第4トレンチ出土遺物



18. 第4トレンチ出土遺物



19. 第4トレンチ出土遺物



20. 第5-2トレンチ出土遺物



21. 第5-2トレンチ出土遺物



22. 第5-3トレンチ出土遺物



23. 第5-4トレンチ出土遺物



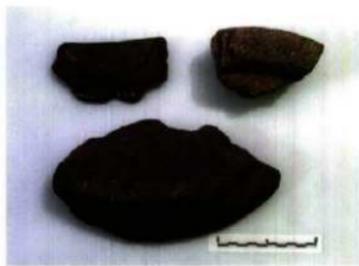
24. 第5-5トレンチ出土遺物



25. 第5-6トレンチ出土遺物



26. 第5-8トレンチ出土遺物



27. 第5-9トレンチ出土遺物

発刊にあたって

この報告書は平成14年度に実施された史跡高遠城跡内の土塁と堀の遺構確認調査結果と、平成15年度に実施された登録有形文化財である高遠閣の耐震改修工事と下水道管敷設工事のための遺構確認調査結果を収録したものです。

今回の土塁と堀の遺構確認調査では、往時の状況を窺い知る貴重な調査結果が得られたところと、変更が大きく遺構の確認が出来ないところがありました。

二ノ丸と三ノ丸を隔てる堀は現状より2m以上埋まっており、斜面の土も黄味の強い鹿沼土であったことから考えると、現在の景観とは異なる堅固な城郭であったろうことが想像されます。

公園グラウンドは戦後の失業対策事業で大きく改変された箇所ですが、今回の調査から、すでに埋められてしまった堀の位置を特定し、掘助曲輪の規模を再考するための結果が得られました。

高遠閣周辺の調査は工事に伴って行なわれた限られた範囲での調査でしたが、多くの遺物や様々な遺構が確認されています。

今後調査範囲を広げ、高遠城跡全般の遺構をより正確に確認しながら、今後の城跡の管理、保存活用を図っていかねばならないと思います。

この調査は丸山敏一郎氏を団長に平成15年と16年の2年間にわたって行なわれました。常に調査の先頭に立って活躍をいただきましたことにお礼を申し上げます。また、真夏の暑い時も凍てつく厳冬の中も本調査に加わっていただき、作業を推進していただきました作業員の方々の御努力に心より感謝申し上げます。そして、この調査にあたりご指導をいただきました文化庁・県教育委員会の先生方、長野県埋蔵文化財センター調査研究員の先生方にこの場を借りてお礼申し上げるとともに、この報告書が今後の高遠城跡の研究をはじめとする教育文化の向上、埋蔵文化財の一層の保護のために活用されることを願い、発刊にあたっての言葉と致します。

平成16年3月

高遠町教育委員会
教育長 中原 長 昭

例 言

- 1 本報告書は、平成14年度に実施した遺構確認調査及び平成15年度に実施した高遠閣改修工事に先立つての事前発掘調査の調査報告書である。
- 2 この調査は史跡高遠城跡（長野県上伊那郡高遠町大字東高遠2038-1番地ほか）の整備に向けて遺構の状況を確認すること、及び高遠閣改修工事に伴う下水道工事の事前調査を目的として、高遠町教育委員会が実施したものである。
- 3 発掘調査は平成14年7月24日より9月12日まで、平成15年5月26日から6月27日まで、平成15年11月25日から12月26日まで現場での作業を実施し、平成14年9月13日より平成16年3月31日まで遺物等の整理及び報告書の作成を行った。
- 4 本報告書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。
 - 本文執筆者 ・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子
 - 図版製作者 ・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・上島 和也・牛山 由美子・鈴木 和 恵
 - 写真撮影 ・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・上島 和 也
 - 遺物整理 ・丸山 敏一郎・嶋田 佳寿子・上島 和 也・牛山 由美子・鈴木 和 恵
- 5 本報告書の編集は高遠町教育委員会が行った。
- 6 遺物及び実測図類は高遠町教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査、報告書作成にあたって多数の方々のご指導、ご支援を受けた。特に下記の三氏には格別ご協力をいただいた。とまども感謝申し上げます。

中 村 文 彦 氏（高遠町歴史博物館館長）	高遠城跡全般
河 西 克 造 氏（長野県埋蔵文化財センター調査研究員）	城館跡一般
市 川 隆 之 氏（長野県埋蔵文化財センター調査研究員）	陶磁器類

目 次

口 絵 カラー写真	①
発行にあたって	⑦
例 言	⑧
第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に到るまでの経緯	1
第2節 発掘調査の組織	2
第3節 発掘調査の経過	2
第2章 史跡高遠城跡の環境	5
第1節 高遠城跡の位置	5
第2節 高遠城跡の歴史的環境	6
第3章 絵図資料等に見る縄張り	7
第4章 発掘調査の結果	15
第1節 発掘調査	15
I 平成14年度発掘調査	15
II 平成15年度発掘調査	19
III 平成14年度～15年度調査出土遺物総括	36
第5章 まとめにかえて	37
あとがき	39
高遠城跡発掘調査(平成14～15年度)遺物一覧	40
写真図版	47

挿 図 目 次

第1図 高遠城跡の位置	5	第9図 第2-2トレンチ平面・断面実測図	25
第2図 長野県上伊那郡高遠町實測区域圖	12	第10図 第2-3トレンチ平面・断面実測図	25
第3図 高遠城図『日本城郭史資料』第13巻	13	第11図 第1・2トレンチ断面図	27
第4図 史跡高遠城跡(平成14・15年度調査地区)	16	第12図 第3トレンチ断面実測図	29
第5図 二ノ丸内発掘調査区	17	第13図 第4トレンチ平面・断面実測図	29
第6図 第1-1トレンチ断面実測図	21	第14図 第5トレンチの1平面・断面実測図	31
第7図 第1-2トレンチ平面・断面実測図	21	第15図 第5トレンチの2平面・断面実測図	33
第8図 第2-1トレンチ平面・断面実測図	23	第16図 第6トレンチ平面・断面実測図	35

表 目 次

第1表 高遠城跡絵図資料一覧	8
第2表 高遠城跡発掘調査(平成14～15年度)遺物一覧表	40

図 版 目 次

巻頭カラー図版

1	第1-1トレンチ堀調査前	①	15	第2-3トレンチ出土遺物	⑤
2	第2-1トレンチ土塁調査前	①	16	第3トレンチ出土遺物	⑤
3	二ノ丸土塁・堀現状	①	17	第4トレンチ出土遺物	⑤
4	第2-2トレンチ堀の状況	②	18	第4トレンチ出土遺物	⑤
5	第2-1トレンチ土塁基底部遺構の状況	②	19	第4トレンチ出土遺物	⑤
6	第3トレンチ堀土層断面(第12図6)	③	20	第5-2トレンチ出土遺物	⑥
7	第3トレンチ堀土層断面(第12図7)	③	21	第5-2トレンチ出土遺物	⑥
8	第3トレンチ堀土層断面(第12図8)	③	22	第5-3トレンチ出土遺物	⑥
9	第4トレンチ堀土層断面(第13図9)	④	23	第5-4トレンチ出土遺物	⑥
10	第4トレンチ杭列の状況	④	24	第5-5トレンチ出土遺物	⑥
11	第4トレンチ遺物出土状況	④	25	第5-6トレンチ出土遺物	⑥
12	第1トレンチ出土遺物	⑤	26	第5-8トレンチ出土遺物	⑥
13	第2-1トレンチ出土遺物	⑤	27	第5-9トレンチ出土遺物	⑥
14	第2-2トレンチ出土遺物	⑤			

第3章(5)写真資料内図版

1	商工会運動会	14	5	グラウンド造成工事(昭和25年)	14
2	商工会運動会	14	6	白山より公園を望む(明治30年)	14
3	勤助曲輪より太鼓橋へ	14	7	二ノ丸高遠閣前付近(昭和5年)	14
4	高遠学校運動会	14			

白黒図版

1	第1-2トレンチ三ノ丸調査前	47	16	第5-8トレンチ調査前	49
2	第1-2トレンチ土層断面	47	17	第5-8トレンチ全景	49
3	第2-3トレンチピットの状況	47	18	第5-8トレンチ石垣1・2の状況	50
4	第2-3トレンチピットの状況	47	19	石垣1の状況	50
5	グラウンド調査前の状況(第4トレンチ付近)	47	20	石垣2の状況	50
6	グラウンド調査前の状況(第3トレンチ付近)	47	21	第5-8トレンチピットの状況	50
7	第5トレンチ調査前	48	22	第5-8トレンチ集石1・2の状況	50
8	第5トレンチ調査前	48	23	第5-8トレンチ土坑1の状況	50
9	第5-6トレンチ遺構の状況	48	24	第6トレンチ調査前	51
10	第5-5トレンチ竪穴状遺構1の状況	48	25	第6トレンチ集石検出時の状況	51
11	第5トレンチ竪穴状遺構1・2の状況	48	26	第6トレンチ集石1の状況	51
12	第5トレンチ竪穴状遺構2・3・4の状況	48	27	第6トレンチ全景	51
13	第5-2トレンチの状況	49	28	第6トレンチピット2の状況	51
14	第5-7トレンチ集石3の状況	49	29	第6トレンチ土層断面	51
15	第5トレンチ全景	49			

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経緯

高遠城は、武田信玄築城の戦国時代の平山城であり、江戸時代には保科、鳥居・内藤氏などの居城として、明治の廃城までおよそ350年間、南信州の一つの政治的文化的拠点であった。

廃城後も城跡の北西部分（三ノ丸、勸助曲輪、大手）に改変が見られるものの縄張りの様相をよく留めている。

昭和48年5月26日『三峯川と藤沢川の合流点にある段丘先端部に築かれた平山城できわめて戦国的な城郭の構えをとどめている』として史跡に指定された。また、明治8年頃から植えられはじめたコヒガンザクラは、昭和35年2月11日、長野県天然記念物に指定されている（名称高遠のコヒガンザクラ樹林）。

昭和61、62年度に高遠城跡の『史実に基づき遺構の整備復元等、将来計画を樹立し史跡の存続を図ることを目的』として、保存管理計画が作成された。続いて、この保存管理計画を受けて、平成11、12年度には史跡高遠城跡整備基本計画を策定した。整備基本計画の中で、1. 遺構の保存、修理 2. 縄張りの復元 3. 人々に親しまれた景観の保全 4. 史跡の公有地化の4項目を計画策定の基本認識に位置付けている。すなわち、史跡高遠城跡の整備は、廃城直前の高遠城に限りなく近づけて、曲輪、石垣、土塁、堀等の遺構を復元し、既に城跡と一体のものとして認識されているコヒガンザクラの保護・育成との調和を図りながら保存していくことである。

遺構を復元するには、原状がどうであったか、現在遺構がどのように残存しているのか、既に消滅しているのか把握しなければならない。その方法の一つとして発掘調査が必要である。また、多く残されている絵図、写真、文献などの資料による検討も有効である。

平成14年度、遺構の残存状況を確認するために、グラウンド（三ノ丸・二ノ丸の一部）では堀の確認、高遠閣南の二ノ丸・三ノ丸では土塁と堀の確認のためトレンチを設定し、試掘調査を実施した。（第2図）

二ノ丸に建つ高遠閣は集会所として使用されているが、平成14年に国の登録有形文化財に登録された。高遠閣は昭和11年建築の木造二階建ての壮大な建造物であり、築後およそ70年を経過し、老朽化している。平成15年度、全面的に耐震工事を行い、あわせてトイレの水洗化工事も実施することとなったため、下水道管理設地と高遠閣の床下一部の発掘調査を実施した。

- 平成13、12、13 現状変更許可申請（発掘調査）…二ノ丸堀・土塁、勸助曲輪堀
- 平成14、1、29 文化庁より現状変更許可（発掘調査）…二ノ丸堀・土塁、勸助曲輪堀
- 平成15、4、30 現状変更許可申請（発掘調査）…高遠閣
- 平成15、5、23 文化庁より現状変更許可（発掘調査）…高遠閣
- 平成15、7、8 現状変更許可申請（建物改修等）…高遠閣改修
- 平成15、7、24 文化庁より現状変更許可（建物改修等）

第2節 発掘調査の組織

○ 高遠町教育委員会

教育委員長	横田 稚	委員	原 太郎
委員長代理	阪下 哲彦	委員	広瀬 千代美(～H14.10)
		委員	清水 加代子(H14.10～)
教育長	中原 長昭	生産学習係	小松 善史(～H15.3)
教育次長	伊藤 順一	生産学習係	伊藤 透(H15.12～)
生涯学習係長	丸山 敦	生産学習係	北原 善昭(H15.4～)
		生産学習係	嶋田 佳寿子
		生産学習係	植田 正樹(～H15.3)
		生産学習係	上島 和也(H15.4～)

社会教育指導員 丸田 武男 北原 世津子

○ 発掘調査団

発掘調査団長 丸山 徹一郎

○ 発掘調査、整理作業に参加された方々(敬称略)

有賀 一弘	伊東 晁	伊藤 定雄	伊藤 節子
伊藤 妙子	牛山 由美子	金井 正江	北原 幸司
篠田 竹次	鈴木 和恵	武井 優	田中 三千夫
藤田 明	水山 志津江	宮原 孝文	

第3節 発掘調査の経過(調査日誌より)

平成14年 ニノ丸堀、土壘、勸助曲輪堀の確認調査

- 7月24日 安全祈願の後、事務局と調査団長現場打合せ。
- 8月1日 第3、4トレンチ設定
- 8月2日 作業員説明会
- 8月5日 調査開始、測量基準点設定
- 8月10日～19日まで、作業休み
- 8月20日 第2トレンチ北面断面実測、写真撮影と第4トレンチ掘削。陶器やすり鉢等多数出土。2-2トレンチ内より、固く締まった部分を検出。堀内道として使われた可能性が考えられる。
- 8月21日 第3、4トレンチ断面実測、遺物記録。
- 8月22日 第2トレンチ掘削、断面に石の層を確認。第3トレンチから杭列を検出。
- 8月23日 第2、3トレンチ調査
- 8月26日 各トレンチ写真撮影及び記録。第1、2トレンチの東側(三ノ丸)に、トレンチ1-2、2-3を設定する。
- 8月27日 第3トレンチ断面実測。2-3トレンチ掘削開始、柱穴と思われる穴が3箇所を確認された。
- 8月28日 1-2トレンチ調査開始。旧県教員住宅時代の礎石を多数確認。
- 8月29日 1-2トレンチ調査

- 8月30日 長野県埋蔵文化財センター河西克造調査研究員現地指導。2-1トレンチ土壘断面実測。
- 9月2日 1-2トレンチ南側断面実測。
- 9月3日 2-3トレンチ断面実測、確認の後埋め戻し。第3トレンチ断面確認。
- 9月4日～11日 第3トレンチ掘り込みの位置を確認しながら、断面実測図作成。
- 9月10日～11日 テント片付け、竹垣修理 調査終了。

平成15年 高遠周辺調査

- 5月26日 安全祈願、テント設営、道具搬入後調査位置(①グリット～⑦グリット)設定。
②、④、⑥を掘削。⑥は山砂を含む盛土である。
- 5月27日 ②北側から大きな石が数個出土。グリット内南東隅の土の色は黄色っぽい。
- 5月28日 ②、④をGL-60cmで掘削を一時中断する。③、⑤の南半分を掘削開始。⑦を②の北側に設定し掘削開始。グリット毎の高低差を計測。
- 5月29日 ④、⑥、⑦掘削。⑥より柱穴の中に礎石と思われる平石を確認。その他、いくつかピットも確認される。
- 5月30日 ③掘り下げ。ブロック状の炭や陶磁器片が多く出土。④ピットを記録後、更に掘削すると黒土の面よりピット検出。ピット内より検出した2個の石を記録。かつて、調査区の所有者(北原文男氏)であった方が見える。土壘の下から歩道のあたりまでずっとなだらかな傾斜であり、桑畑であったという。
- 6月2日 ②、⑦の平面実測、写真撮影。③の未掘箇所を掘り下げる。
- 6月3日 ④、⑤、⑥断面実測のため、壁面を削る。柱穴は保護のため、一時土を入れておく。
- 6月5日 ②、③、④掘削。⑤、⑥の柱穴を記録。②内南側から、木材(痕跡のみの確認)を番線で巻いたようなものが出土。丸太をワイヤーで巻いてあったものか。また、陶磁片や銭等も出土。
- 6月6日 ②、⑤掘削、④内のピット確認。
- 6月9日 ③、④平面実測図、竪穴状遺構2、4を断面実測図作成。竪穴状遺構3は一気に埋まったものと見られる。
- 6月10日 ⑤、⑥断面実測、写真撮影。
- 6月11日 ④、⑤断面実測。
- 6月12日 ②断面(北面、東面、南面)、③断面(北面、東面)実測。それぞれ断面観察用に残っていた南北方向のベルトをはずす。
- 6月16日 ③のベルト部分掘削。
- 6月18日 埋めてあった柱穴を記録のため、再び掘る。
- 6月20日 ⑥南西隅にピット検出。中から礎石と思われる平石と栗石検出。石の下まわりは固く締まっている。また、これらが埋まった際に混入したと思われる土が箇所により異なるため、時期を違えたものである可能性が高い。
- 6月26日 ⑥断面(西側、南側)実測。⑥から柱穴検出、記録。
- 6月27日 ⑥平面実測図作成。写真撮影後、調査終了。道具、テント片付け。
- 7月22日～8月1日 掘削箇所埋め戻し

平成15年 高遠閣内調査

- 11月25日 高遠閣ホール側の側面倉庫（元々は売店として使っていたという）部分の調査開始。高遠閣基礎の石群を検出。上層の土は混ざった土で高遠閣建設当時に運んだものと思われる。その下は叩き締めた土の層となる。柱穴を検出する。下層の土は高遠閣を建てた以前の土ではないかと思われる。
- 11月26日 南側に掘削範囲を拡張する。北側より3個柱穴を検出。また叩き締めてある土の部分から、側面に沿って細長い穴を検出。それぞれは年代が異なり左から古い順に並んでいる。叩いた部分とそうでない箇所の境から、新たな柱穴が出土。何度も掘った跡らしい。
- 11月 27日 写真撮影。北側断面実測の後、掘削。
- 11月 28日 断面実測、及び平面、側面の写真撮影。記録後調査終了。

平成15年 高遠閣下水道管敷設に伴う調査

- 12月 9日 調査開始。道具運搬後、トレンチ設定と道具置場の設営を行う。6月に調査したトレンチの南壁直線延長上に1.5m幅のトレンチを設定。前回調査で盛土層と確認されている⑬層までは、一気に掘り進める。
- 12月10日 東側上方より掘削開始。
- 12月11日 前回調査で出土した礎石を確認。土手下方に石垣（石垣2とする）を検出。南北の石積みと方向が揃うため、土手の土留めとして、造成されたものと考えられる。石垣2の東側より、また石垣（石垣1）を検出。
- 12月12日 石垣2と赤土の部分进行精査する。石垣の中から、陶器や釘、鉄製品と見られるものが出土する。石垣より西側の掘り下げを開始。
- 12月15日 石垣2の断面実測、全体平面実測図を取る。
- 12月16日 石垣部分の平面実測、及び西側へさらに掘削を進める。桜の根を残しての調査となるが、根の下から石群を検出する。
- 12月17日 歩道の縁まで、掘削を進める。砂利を多く含む。鉄製の水道管が出土。
- 12月18日 16日に検出された石群は桜の根の下にある事から、古いものと考えられる。検土杖で確認すると調査区の南側へ長い距離続いているようだ。歩道側の方から新しい水道管2本を検出。攪乱層。
- 12月23日 石群の平面、石垣1の断面、北側断面の実測図を作成。
- 12月24日 北側断面の実測、石群の平面実測を行う。高遠閣調査の際に測定した床レベルを正確に測り出す。
- 12月25日 石群平面実測後、測量し、石を除く。石の下から土坑を検出。GL-120cm位の深さの所から、礎石と思われる石を検出。
- 12月26日 昨日検出された礎石を写真撮影し、平面実測後測量。石を取り上げると下から更に石が現れる。実測図作成、測量後石を取り上げると、下から再び石を検出。実測図作成、測量後、また石を検出。堅穴の中に石が4段に積み重なっていた。道具の片付け、調査終了。

第2章 史跡高遠城跡の環境

第1節 高遠城跡の位置



- 1 上手垣外 2 桂泉寺(院) 3 花畑 4 堀 5 西勝間 6 後沢 7 北垣外 8 竹垣外
9 釣場の城山 10 山田城 11 丸山城 12 山田古城

高遠城跡は、中央構造線に沿って南に流れる藤沢川と北に流れる三峰川とが合流する地点の東側台地上に位置し、北は藤沢川に侵食された急な斜面。南、西は三峰川によって浸食され、基盤岩が露出した急崖となっている。三峰川との比高はおよそ70mである。西は街並を隔てて北から連なる鉾持山の絶壁が三峰川に迫り、南は白山の絶壁が三峰川に迫っている。東は月蔵山の山麓まで続く平坦面である。標高およそ805m内外である。城跡から三峰川の谷奥に南アルプスの仙丈ヶ岳を仰ぎ見、西に向かっては高遠町の街並み、伊那市市街とその背後の中央アルプス連山を望むことができる。天険の要害であるとともに絶景の地にある。

高遠は高遠藩三万三千石の城下町であるとともに、藤沢街道の宿場でもあり、江戸時代から明治にかけて上伊那地方の政治文化の中心であった。高遠から北に藤沢川に沿って遡ると、杖突峠を越えて諏訪盆地に至り、三峰川に沿って南に遡り、分杭峠を超えて地蔵峠に通ずる秋葉街道は信仰の道であるとともに、三遠地方との文化、物資交流の道でもあり、高遠は古くから交通の要所でもあった。

『高遠町誌』には、高遠城跡の位置する東高遠の台地上、三峰川を挟んだ対岸の勝間地区、小原地区、下山田地区、藤沢川を挟んだ対岸的場地区、西高遠地区から縄文時代、弥生時代、古代さらに中世の遺物が各所で採集されている記録が記載されているが、勝間地区の堀遺跡以外は学術的な調査が行われていないため詳細は不明である。また、的場地区の城山、下山田地区の古城・山田城・丸山城・与市城・小池城、藤沢川に沿って台の藤沢城跡(蛇山)・栗木田城・中条の城、長谷村の非持城・溝口上ノ城・溝口下ノ城・良城・神明城など中世の山城あるいは居館跡と伝承される遺跡が点在しているが、詳細は明らかでない。

第2節 高遠城跡の歴史的環境

高遠城を現在の位置に築城した確かな資料と言われているものは、武田信玄の側近の臣、高白斎が記した『高白斎記』である。これによると天文16年(1647年)3月のところに、「高遠山の城歟立て」とある。これは信玄がまったくの処女地に築城したのか、あるいは信玄に滅ばされた高遠氏の居住地を拡張改修したのか明らかではないが、当時築城技術に秀でていた山本勘助の縄張りによって行われたと伝えられており、本丸西側の一面に勘助曲輪の名が残っている。これらのことから高遠城は信玄が築城したと考えられている。

築城以来、武田氏(35年間)、保科氏(53年間)、鳥居氏(53年間)、幕府領(2年間)、内藤氏(182年間)と約350年間にわたり南信州の中心として栄えた城である。

残された絵図が十数点ある。絵図により城跡の変遷をたどると、保科氏以前の曲輪には笹曲輪が無く、本丸と二ノ丸の間は土橋で繋がっていて、南曲輪と二ノ丸の間の空堀も両曲輪の中央付近にあり、方向も東西に向かって造られていたようである。鳥居氏の時代になって、大手の位置が東から西に移されたようである。宝永・享保年間など数度の地震により建物・堀・土居・石垣などが破損し、幕府の許可を得て修復を行っている。廃藩となり、明治5年、城内の建造物すべてが払い下げられた。

高遠城跡の現状をみると、二ノ丸、本丸、南曲輪、笹曲輪、法幢院曲輪はほとんど国有地、町有地であり、往時の城郭の様相をよく残している。三ノ丸は民有地が多く民家、商店が建っており、各種の看板なども多く雑然としている。三ノ丸の北西部はかつて長野県高遠高等学校の敷地であり、校舎の建設にあたって削られている。また、三ノ丸西側から勘助曲輪にかけては二ノ丸を削り、堀を埋めてグラウンドに造成したために大きく改変されており、往時の痕跡を

留めない。

現在の高遠城跡は史跡として良好に遺構を残す全国的にも注目される中・近世の城郭跡であるとともに、長野県天然記念物に指定され、全国的にも知られるコヒガンザクラの名所でもあり、観桜期には40万人を超えるの観光客が訪れる。史跡としての高遠城跡、桜の名所としての高遠城跡、両者が成立つ整備を進めなければならない。また、二ノ丸に昭和11年に建てられた高遠閣が平成14年登録有形文化財に登録された。

第3章 絵図資料等に見る縄張り

高遠城跡は廃城後も城跡の北西部（三ノ丸、勤助曲輪、二ノ丸、大手）に改変が見られるものの、縄張りの様相をよく留めている。高遠城の縄張りを知る手がかりとしては、絵図資料、文献資料などがある。高遠城の絵図は多く残されている。高遠城にかかわる文献資料として『信府統記』等が知られている。大正9年作成の「長野県上伊那郡高遠町実測区域図（東高遠之部）」（第2図）は、旧地形を示す重要なものである。また、国立国会図書館所蔵の陸軍築城部作成の『日本城郭史資料』に収録されている高遠城測量図（第3図）も貴重な資料である。その他高遠城にかかわる多くの写真が残されているがこれらも貴重な資料である。

（1）絵図資料

平成12年3月作成の『史跡高遠城跡整備基本計画書』によると、当時確認されていた絵図資料は14点である。（第1表）

本来城は戦闘にかかわる施設であり、すべての絵図が正確に描かれているとは言い切れないであろう。作成の目的によって、描き方にも違いがあったと考えられるが、高遠城の変遷、曲輪の配置の様子を知ることができる。

1は最も古い縄張り描かれた絵図と考えられる。2・3はほとんど1と同じ曲輪の配置となっており、ともに笹曲輪がなく、門、塀、櫓、橋などは描かれていない。本丸と二ノ丸は土橋で繋がっていて、南曲輪と二ノ丸の間の空堀は両曲輪の中央付近にあったようである。3では西側が大手と表記されている。5ではじめて笹曲輪が描かれるようになる。6の信州高遠城之絵図「正保城絵図」の曲輪の構成は現在とほとんど同じであり、門、塀、櫓、橋等についても詳細に描かれており、大手が西になっている。7は6とほぼ同じであるが、曲輪、堀、石垣等について詳細な説明が記載されている。9の高遠城図は享保10年の大地震で城内の各所が破損し、その修復の要請を幕府に提出した時の図である。破損箇所、破損の状況が詳細に記されている。櫓門、石垣、櫓、橋、櫓等も描かれており当時の状況を伺うことができる。10は9とほぼ同じである。12の高遠城図は現存する絵図で最も新しく、廃藩直前の図である。枳形、櫓門、石垣、櫓、橋等が詳細に描かれている。史跡高遠城跡の整備計画は廃藩直前の縄張りのイメージの復元を目指しているので貴重な資料である。13は塀が鮮明に描かれその構造を知ることができる。鉄砲狭間も描かれている。種々の建物、周囲の樹木の姿を伺うことができる。14は本丸御殿の詳細な間取図である。

『史跡高遠城跡整備基本計画書』に収録された絵図14点についてその概要を記したが、この他にもいくつかの絵図が確認されている。中にはほとんど同じ構図で描かれたものもあり、何種類かの模写された絵図が存在すると思われる。今後の検証を待ちたい。

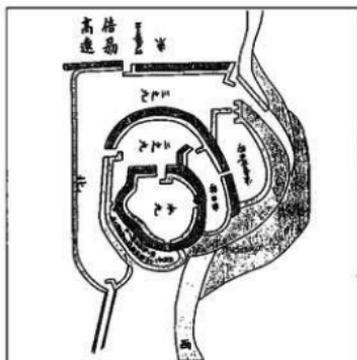
No	名称	年代	説明	規格(cm)	所有者
1	高遠城図 『主図合結記』	江戸初期～ 中期	築城当初の縄張りにも最も近いと思われる。笹曲輪がなく、大手は東にあったと考えられる。	[27.9×20.2]	高遠町
2	高遠城之図 『千曲の真砂』記載	宝暦3年 (1753)	『主図合結記』の絵図の写しと考えられる。	[25.2×17]	高遠町
3	信州高遠城図	不明	『主図合結記』の絵図と曲輪の構成はほとんど同じであり、笹曲輪はないが大手は西になっている。		国会図書館
4	武田氏、織田氏戦闘 配置図	天正10年 (1582)	両軍の配置を主として描かれたものではあるが、曲輪の構成はわかる。笹曲輪はない	64×48	上伊那図書館
5	高遠城図	寛永年間 (1624～47)	藩士屋敷が記された絵図である。笹曲輪があり、大手が東になっている。	40×28	高遠町
6	信州高遠城之絵図 『正保城絵図』	正保年間 (1644～47)	江戸幕府が各藩に提出させた城郭絵図。	[255×188]	内閣文庫
7	信州高遠城之絵図	不明	『正保城絵図』の写しと考えられるが、さらに詳細な記載がある。		[高遠町]
8	高遠城図	内藤氏時代前期	鳥居氏時代の藩士名の入った屋敷や城郭を内藤氏時代になってから書いたもので、この頃には大手が西になっている。	65×48	高遠町
9	高遠城図 享保10年	(1725)	震災による破損箇所を幕府に申請した図。石垣、門(枡形)等詳細に描かれている。	75×60.5	高遠町
10	信州高遠城図	不明	享保10年の破損届け図と内容はほとんど同じ。		国会図書館
11	高遠城図	文化年間 (1804～17)	櫓門、屋敷等について詳細に描かれている。	85×65	黒河内靖氏蔵
12	高遠城図	慶応末～ 明治初期	最も新しい絵図である。石垣、門(枡形)等詳細に描かれている。	110×80	星野正明氏蔵
13	高遠城図	明治初期	部分的な図であるが樹木、塙の状況がわかる	(掛軸)	藤井正四氏蔵
14	高遠城内閣取図	明治初期	本丸御殿の間取が詳細に描かれている。	33.5×24.5	高遠町

第1表 高遠城跡絵図資料一覧 (『史跡高遠城跡整備基本計画書』抜粋 []内は加筆)

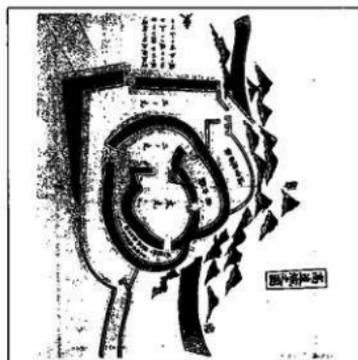
なお、6の信州高遠城之絵図『正保城絵図』と7の信州高遠城之絵図は同一の物と思われる。6の絵図に細かく記載されている各曲輪の規模やその他の説明を整理して作成されたものと思われる。

(2) 文献資料

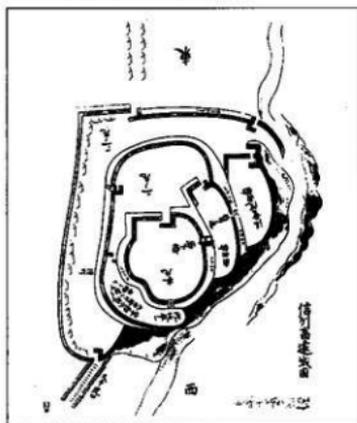
高遠城跡に関する文献資料は、数多く残されているが、城郭の配置、規模等について詳細に記載されたものとしては『信府統記』がある。『信府統記』は松本藩主松平忠恒が臣下に命じて作



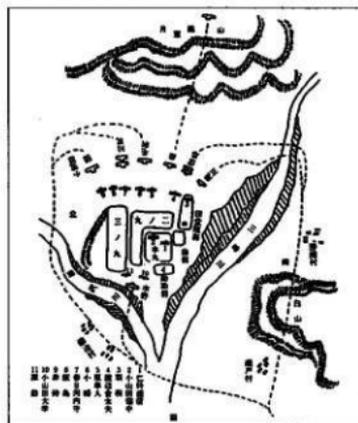
1 高遠城図『主図合結記』



2 高遠城之図『千曲の真砂』



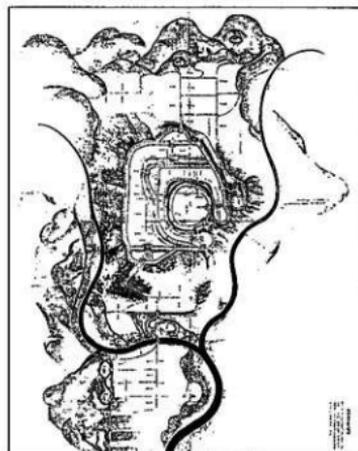
3 信州高遠城図



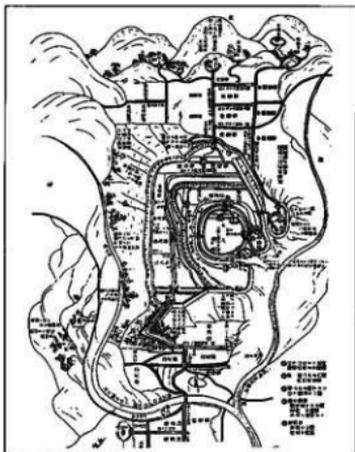
4 武田、織田氏戦闘配置図



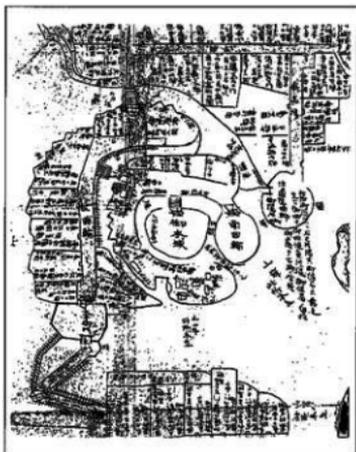
5 高遠城図



6 信州高遠城之絵図「正保城絵図」



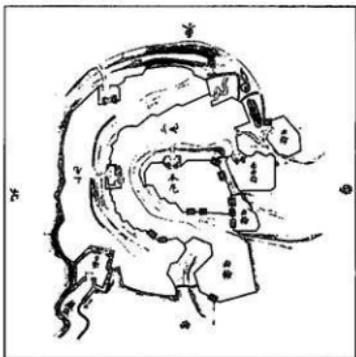
7 信州高遠城之絵図



8 高遠城図



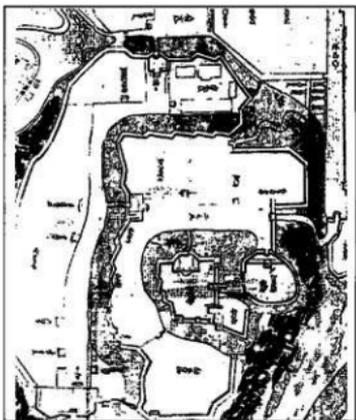
9 高遠城図



10 信州高遠城図



11 高遠城図



12 高遠城図



13 高遠城図



14 高遠城内間取図

成させた信濃の地誌で、高遠城を含め、信濃の各城について城主、城郭の構造についてまとめてある。

高遠城については「高遠城開起並城主交替年数」の項に、城の歴史変遷と城郭の構成について記載されており、特に城郭内の各曲輪の規模、門、櫓、蔵、橋等の城内施設に関してその規模はほとんど記されていると考えられる。南曲輪の規模が記載されていないが、城中の門の説明には南曲輪がある。各曲輪等の規模についての記載は、上記絵図7記載の規模、現況の地図から計測した規模とも違いがある。土塁の扱い方の相違によるものとも思われる。

高遠城廃城の際、城内建物全部の払い下げを受けた松島屋徳二郎の手記、「御城郭下見帳」「城郭当座帳」「立具入札帳」には廃藩時に払い下げられた建物や建具等について詳細にその規格、価格について記録されている。

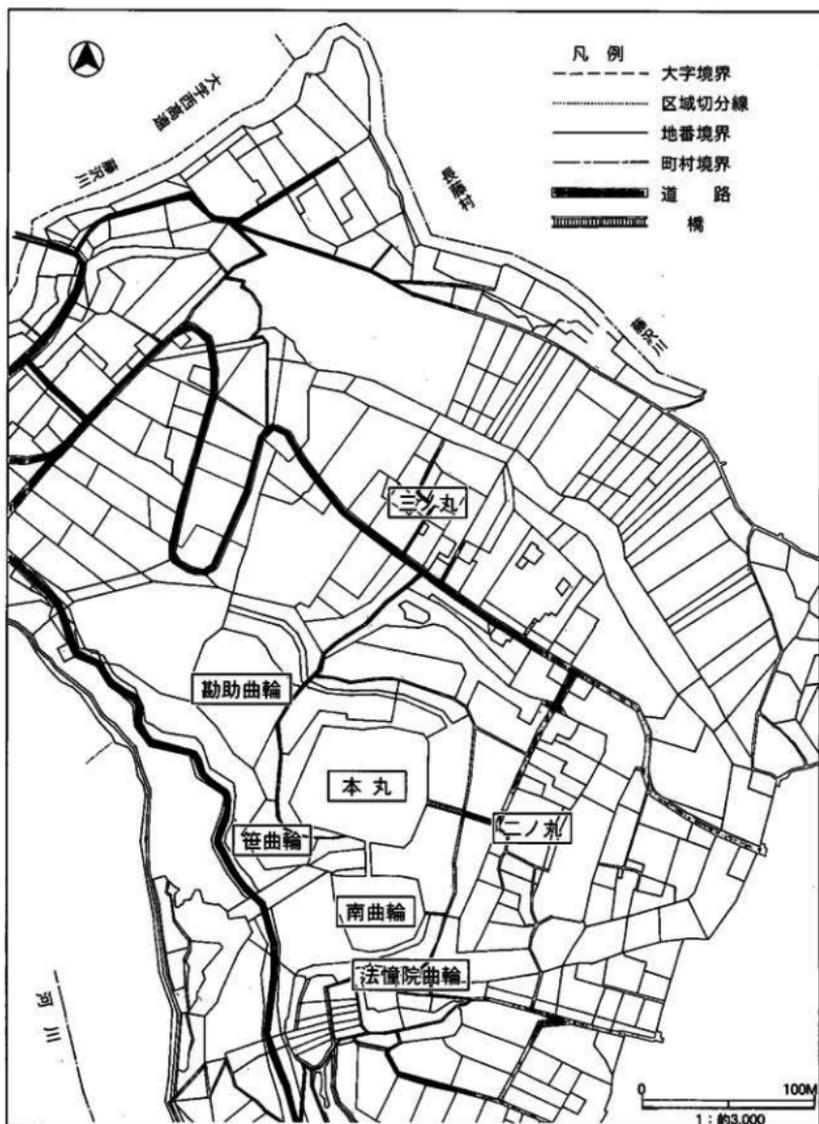
(3) 長野県上伊那郡高遠町実測区域図

「長野県上伊那郡高遠町実測区域図」(第2図)は大正9年に完成した高遠町の土地基本図である(大正7年1月26日実地測量完成 同4月10日 原図編成済 同4月12日～25日 土地所有者縦覧済 同5月5日 基本図確定 同5月12日製図業着手 同9年12月20日 全部完成の付記がある)。これをもとに高遠城跡周辺部分を作図したものが第2図である。曲輪、堀、道路等の城郭の配置(測量当時の旧地形)を読み取ることができる貴重な資料である。特に、廃城から現在までにグランド造成、高遠高校建設などによって大きく改変された二ノ丸、三ノ丸、勘助曲輪と堀の形状を読み取ることができる。三ノ丸の北側を帯状に廻っているのは犬走りの名残と考えられる。

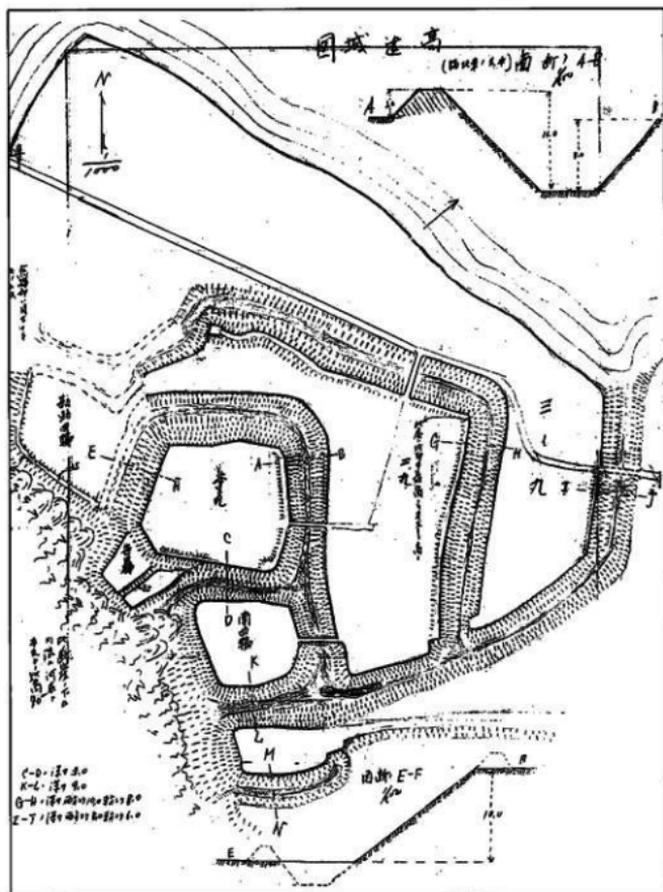
(4) 高遠城図

高遠城図(第3図)は『日本城郭史資料』第13巻に収録されている高遠城の実測図である。『日本城郭史資料』は旧陸軍築城部本部に設置された「本邦築城史編纂委員会」が、昭和8年から実施した全国の原始古代から明治にかけての城郭、要塞等を調査した資料である。(原本は東京空襲で焼失、原稿の控えが『日本城郭史資料』として国立国会図書館に保管されている。)

高遠城跡の本丸、二ノ丸、三ノ丸、南曲輪、笹曲輪、勘助曲輪、法幢院曲輪の曲輪、堀、橋などが描かれている。現在の実測図と重ね合わせてみても、各曲輪の配置、主要部の規模、形状は正確である(三ノ丸北側は略図的である)。実測部分は実線で、消滅、あるいは埋没してい



第2図 長野縣上伊那郡高遠町實測區域圖
 大正7年1月26日實地測量完成 大正9年12月20日全部完成
 (縮尺600分の1) 大字東高遠之部全により作図



原図は1/1000 約1/3000に縮小

第3図 高遠城図『日本城郭史資料』第13巻（国立国会図書館蔵）

る部分は破線で描写してある。本丸と南曲輪をつなぐ土橋、南曲輪と法隆院曲輪との間に架かる白垢橋が描かれていないのは何故であろうか。

『日本城郭史資料』については資料の所在、制作の経過等すべて長野県埋蔵文化財センターの河西克造調査研究員にご教示いただいた。

(5) 写真資料等

高遠町歴史博物館には、多くの方々から寄贈された高遠町の歴史、文化、生活を復元する手がかりとなる貴重な写真資料が大量に所蔵、整理されている。ここでは改変が大きいグランド部分（勘助曲輪、二ノ丸、三ノ丸）について、写真資料により曲輪の状況を復元してみたい。

写真①・②・③は大正4年撮影の商工会運動会の光景である（矢島昭氏寄贈 ただし写真の



① 商工会運動会（大正4年）



② 商工会運動会（大正4年）



③ 勤助曲輪より太鼓櫓へ（大正4年）



④ 高遠学校運動会（昭和初期）



⑤ グランド造成工事（昭和25年）



⑥ 白山より公園を望む（明治30年）



⑦ ニノ丸高遠閣前付近（昭和5年）

状況から見て複製と思われる)。桜咲く4月に勸助曲輪で行われた商工会の運動会のスナップで、写真中央奥に三峰川の流れが見え、右手奥に天神山が見える。①と②を合わせた中央の広場がおそらく当時の勸助曲輪の状況であったと思われる。運動会を観覧する観衆が曲輪の周りを囲んでいる。右側から手前にかけての観衆が立っているところは、土塁の上のようである。反対側の西から南を見ると現在確認できる土塁状の高まりはなく平坦である。手前の土塁の内側を数人の人が歩いてるのがこの部分は空堀（鍛冶堀）と思われる。③は勸助曲輪から笹曲輪への坂道であるが堀内道から登っている様子がわかる。③の右端にある立札と②の左端にある立札はおそらく同一のものと思われる。大正14年、二ノ丸、三ノ丸を削って鍛冶堀を埋め運動場としたとされているが、この写真はそれ以前に撮影されたもので、貴重な資料である。

④は昭和初期撮影の高遠学校運動会の写真である。中央の二ノ丸が観衆の格好の座席となっている。この部分が昭和25年頃のグランド拡張工事によって掘削されたと思われる。⑤は昭和25年頃、失業対策事業として行われたグランド拡張工事の様子である。写真は二ノ丸を削っている状況であるが、いかに大掛かりな工事であったかがうかがうことができる。⑥は三峰川をはさんだ対岸の白山から撮影した高遠城跡の写真である。現在の県道芝平・高遠線開通以前の写真であり、往時の高遠城跡の景観がよくわかる。

⑦は二ノ丸門跡から南方を望む写真である（矢島昭氏提供 昭和5年撮影）。高遠閣前あたりから撮影したものと思われる。左側に1mほどの高さの石垣が積まれており、その上段は桑園である。左側も通路より若干高くなっているようだ。奥に茶店と思われる建物があり、その前に乗用車が数台止まっている。高遠閣の建っているところの旧地主は、一面桑園であったと話しているのと符合するが、現状と大きく相違しておりどのような改変がなされたのか不明である。この構図とほとんど同じ写真を使用した絵葉書が当時作成されている。

写真資料については、高遠町歴史博物館の中村文彦館長はじめ職員の方々に多くのご教示をいただいた。

第4章 発掘調査の結果

第1節 発掘調査

I 平成14年度 発掘調査

平成14年度の発掘調査は、次の2つの目的をもって実施した。

- 1・二ノ丸の土塁と堀の構造の確認。
- 2・現在グランドとなっている廃藩後大きく改変された二ノ丸・三ノ丸の西側と勸助曲輪の堀の状況確認。

1・土塁が比較的によく残っている二ノ丸の東側（高遠閣東）と三ノ丸とにわたって、土塁と堀の構造を確認するために、2本のトレンチを設定した。（第5図）

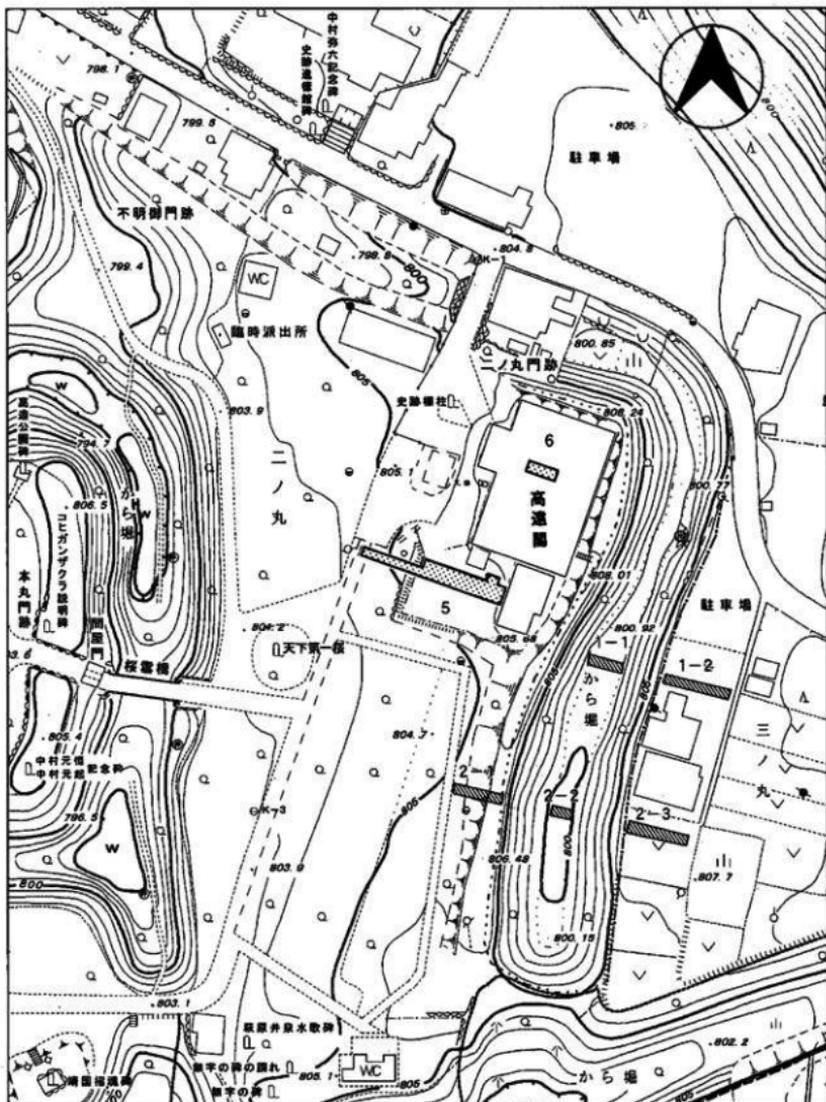
二ノ丸にも堀の中にも桜の老木があり、桜の根は横に大きく広がっており、根を傷めると桜の樹勢にも大きな影響を与えるということで、どのトレンチの調査でも気を遣った。また、桜の時期には多くの観覧客が訪れ、土塁にも登るので、崩落の危険があるため堀の斜面については調査しないこととした。



第4図 史跡高遠城跡(平成14・15年度調査地区)

 平成14年度

 平成15年度



第5図 二ノ丸内発掘調査区



平成14年度



平成15年度

(1) 第1トレンチ (第6図、第7図)

高遠閣東裏に設定(1-1・1-2トレンチ)。土塁も比較的良好に保存されている個所ではあるが、桜の木の根が多く土塁部分は調査ができそうにないので断念し、堀の中と三ノ丸側について調査を行った。

堀は二ノ丸側の現存土塁の頂上から、現状の堀底までおよそ6m80cm。最初に掘られた堀はさらに2m70cmほど深く、鹿沼土を掘り抜いて、白色粘土の層まで掘り込んでいる。全体では9m50cmほどになる。堀底は鋭角でありいわゆる葉研掘りであろう。勾配はおよそ45度、三ノ丸側の勾配がやや緩やかである。堀は徐々に埋没していったというよりも、一気に埋まり、その上に腐植土が堆積したと思われる。調査区内では斜面を突き固めた形跡は確認できなかった。堀幅は23m。

三ノ丸側に設定したトレンチは、元教員住宅が建っていたところであり、住宅の建設、解体時、あるいは耕作によって攪乱されており、城跡に関係すると考えられる遺構は確認されなかった。

出土遺物

堀内第1-1トレンチ出土遺物は26点であったが、全て上層よりの出土であり、ほぼ近代のものであった。三ノ丸側の第1-2トレンチからは、元教員住宅に関わる現代の遺物が確認されたのみであったため、取り上げなかった。

(2) 第2トレンチ (第8図、第9図、第10図)

第1トレンチの南に設定(2-1・2-2・2-3トレンチ)。

土塁は現状で幅9m、高さ1m60cm程である。暗褐色のぼくぼくとした表土の下に叩き締められた20cmほどの層が全面にある。丁寧に積み上げていった様子がわかる。底の部分に、土塁の縁に平行して、布掘り内に2つのピットが確認された。塀の柱の柱跡の可能性もあるが、桜の木の根が一面にあり、上面でどの層から掘り込んだものか確認できなかったのは残念である。

堀は二ノ丸側の現存土塁の頂上から、現状の堀底までおよそ7m20cm。最初に掘られた堀はさらに2m20cmほど深く、第1トレンチと同様に鹿沼土を掘り抜いて、白色粘土の層まで掘り込んでいる。全体では9m40cmほどになる。勾配は45度弱、三ノ丸側の勾配がやや緩やかである。堀は徐々に埋没していったというよりも、一気に埋まり、その上に腐植土が堆積したと思われるが、現在の堀底から1m50cm下のところに平坦面があり、その部分の二ノ丸側が硬くなっている。ある時期に堀内道であった痕跡かとも思われる。堀の幅はおよそ25m。

三ノ丸側に設定したトレンチは、元田辺氏宅の宅地であったところである。堀から5mほど東に寄った辺りに不規則なピットと溝、畝状の遺構が検出されたがその性格はわからない。

出土遺物

土塁部に設置した第2-1トレンチより出土した遺物は19点と少なかったが、そのうち半数は16世紀の遺物であった。主なもので、内耳土器片が7点、瀬戸美濃産天目茶碗の片が1点、北宋銭(熙寧元寶)が1点確認された。堀内第2-2トレンチからは51点の遺物が出土しているが、ほとんどが上層の埋土の中から出土したもので、近現代の遺物が中心であった。三ノ丸内、第2-3トレンチからは27点の遺物が出土している。16世紀の内耳土器片から、19世紀前半の遺物まで、さまざまなものが混在していた。15~16世紀の中国産青磁の盤と思われるものの磁器片が1点出土している。

2・グラウンドの西端（第3トレンチ）と東端（第4トレンチ）に2本のトレンチを設定した。
（第4図）

(1) 第3トレンチ（第12図）

グラウンドの西端に幅5m長さ30mのトレンチを設定、重機で掘削した。断面の観察によると、現地表面は碎石が厚さは20～35cm敷かれている。高遠高校移転後に駐車場に整備するために敷かれたものである。その下は高遠高校時代の校庭であり、昭和25年頃の失業対策事業で造成されたもので厚さ100cmほど盛土されている。その下に平坦な面があるがこれが大正15年にグラウンドを造成したときの地表面で、三ノ丸、勸助曲輪とともに削って堀を埋めていると思われる。この部分での堀の幅は21mほどである。堀の深さは確認していない。

出土遺物

本トレンチからの出土遺物は5点のみで、いずれも近代のものであった。

(2) 第4トレンチ（第13図）

グラウンドの北東隅のバックネット前に幅5m長さ30m（実際に掘削したのは13m）のトレンチを設定し重機で掘削。表土は第3トレンチと同様駐車場造成の際に敷いた碎石である。その下が高遠高校時代の校庭面である。二ノ丸・三ノ丸を削って堀を埋めている。現在、埋没して残っている堀の幅は8m、深さ1m30cmぐらいである。堀の中央から南に1mほど寄った、堀底より20cmほど高いところに暗渠排水の石組みが確認された。この暗渠排水の北側の堀の中から多数の陶磁器、ガラス片等が出土している。この堀の北側は神戸氏の屋敷地であったところであり、高遠高校の建設にあたって神戸氏のご理解により住宅は撤去されたが、そのときに捨てられた陶磁器等と思われる。現在この近くに『神戸邸跡』と刻まれた小さな碑がたっている。堀の南側に堀の端に沿うように直径5cm程の杭の列がある。柴垣のような施設があったものと思われる。

出土遺物

本トレンチ内より出土した遺物は310点と、全調査区総出土遺物中約30%と出土量が最も多かった調査区である。ほとんどが江戸末期より近代にかけての遺物で、生産地も瀬戸美濃産（55%）、高遠焼（22%）によって占められている。器種は行平鍋や焙烙等の鍋類、碗類、壺類等の日常雑器が殆どであり、ほぼ完形に近いものも見られた。

II 平成15年度 発掘調査

平成15年度の発掘調査は次の目的を持って実施した。

- | |
|--|
| 1・登録有形文化財高遠閣の耐震工事・下水道管敷設に先立つ遺構確認調査。
ア 周辺の発掘調査 イ 下水道管敷設予定地の発掘調査 ウ 高遠閣床下の発掘調査 |
|--|

ア 周辺の発掘調査（第5図、第14図、第15図）

高遠閣南側の保育園の跡地（庭の部分）に東西に幅3m、長さ15mのトレンチを設定。ここは下水道管の敷設予定地でもあり、下水道管敷設幅だけの調査では遺構の確認が難しいので広い調査区を設定した。

保育園の庭は盛土によって造成し平坦面を確保し、西端には石垣（石垣2）を積んでいる。遊具の前に砂場があった。それ以前の地表面は東から西に向かって緩やかな勾配で下がっているが、これも原地形ではなく人工的に造成されたものである。廃藩後桑園となっていたのがこの面と思われる。現地表面からおよそ1m10cm下に赤土（ローム層）がほぼ水平に堆積している。トレンチ東側からは性格不明の竪穴状遺構が4基検出された。時代を特定できる遺物は出土していない。西側には20数基のピットが検出され、P11・14の底には平石が据えてあった。ピットのあるものは柱穴である可能性が高い。

（ア）第1号竪穴状遺構

規模は東西2m80cm、南側は未掘で確認できなかったが、調査区内で南北1m80cm。深さは35cmで、㊸の黒味の強い暗褐色土層より掘り込みの痕が確認されており、中の土は黒色土であった。

（イ）第2号竪穴状遺構

規模は東西2m50cm、南北1mの楕円状の竪穴である。深さは70cm。中の土は鹿沼土が混じる赤土と軽石粒を含む褐色土が2層になり入っていた。

（ウ）第3号竪穴状遺構

規模は東西1m40cm、北側は未掘で確認できなかったが、調査区内で南北1m40cmであった。深さは40cmで、㊸の黒味の強い暗褐色土層より掘り込みの痕が確認されている。中には軽石粒を含む鹿沼ブロック混濁褐色土とやや軽石粒含暗褐色土の2層の土が入っていた。

（エ）第4号竪穴状遺構

規模は東西2m60cm、南側は未掘で確認できなかったが、調査区内で南北1m50cmであった。深さは30cm、中には黒土が入っていた。西側の壁はほぼ直壁に近い状況であったのに対し、東側はゆるやかに底へ落ちていた。

出土遺物

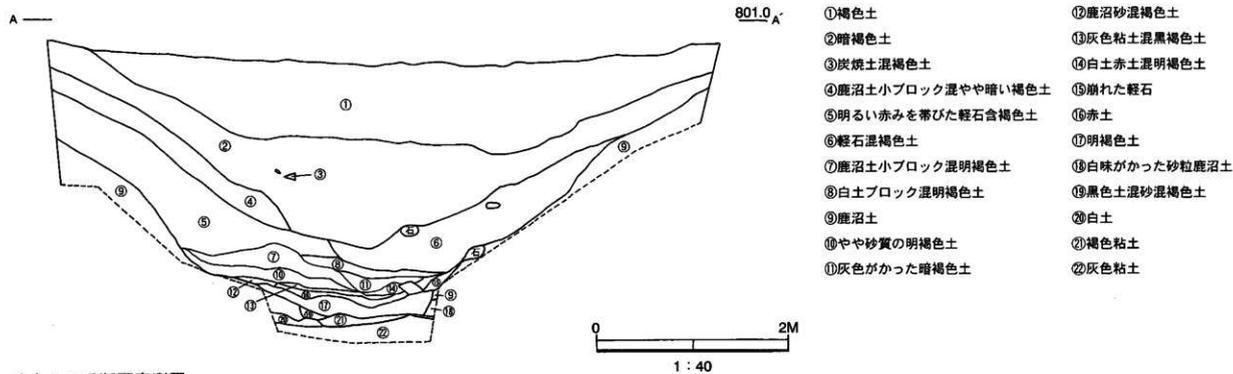
本トレンチ上層からの出土遺物は近代のものがほとんどであったが、下層になると近世のもの割合が高くなり、中には中世の遺物も混ざって出土している。また他地区ではあまり見られなかった青磁、白磁、青華の染付等中国からの輸入陶磁片も複数出土し、㊵からは15～16世紀の中国産青磁の細線蓮弁碗が確認された。産地が特定できるもののうち、57%が瀬戸美濃産であったが、次いで伊万里が15%と割合が高く、唐津産も含めた肥前産の割合は20%にのぼる。これらは刷毛目文碗など碗類が多く、年代も18世紀～19世紀前半にかけてのものが中心であった。また、瀬戸美濃腰鉋碗などで、同文様の別固体のものも確認されている。

イ 下水道管敷設予定地の発掘調査（第5図、第14図）

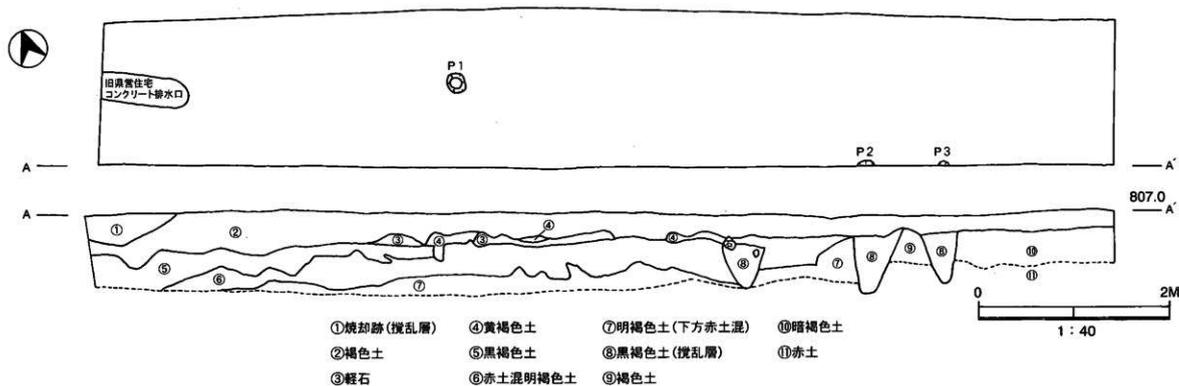
下水道管敷設位置が確定した後に第5トレンチをさらに西方に延長し、発掘調査を行った。

前記した古い地表面の西端には石垣（石垣1）が積まれている。保育園の庭より1m50cmほど低く、園路とほぼ同じレベルのこの辺りは、表土からおよそ60cmは擾乱層である。赤土（ローム層）に掘り込まれたピットが10基確認されているが性格不明である。園路との境に接して集石が2箇所検出されたが、その1つ集石2の下には土坑があり、その中に平石が4段重ねられていた（第14図）。

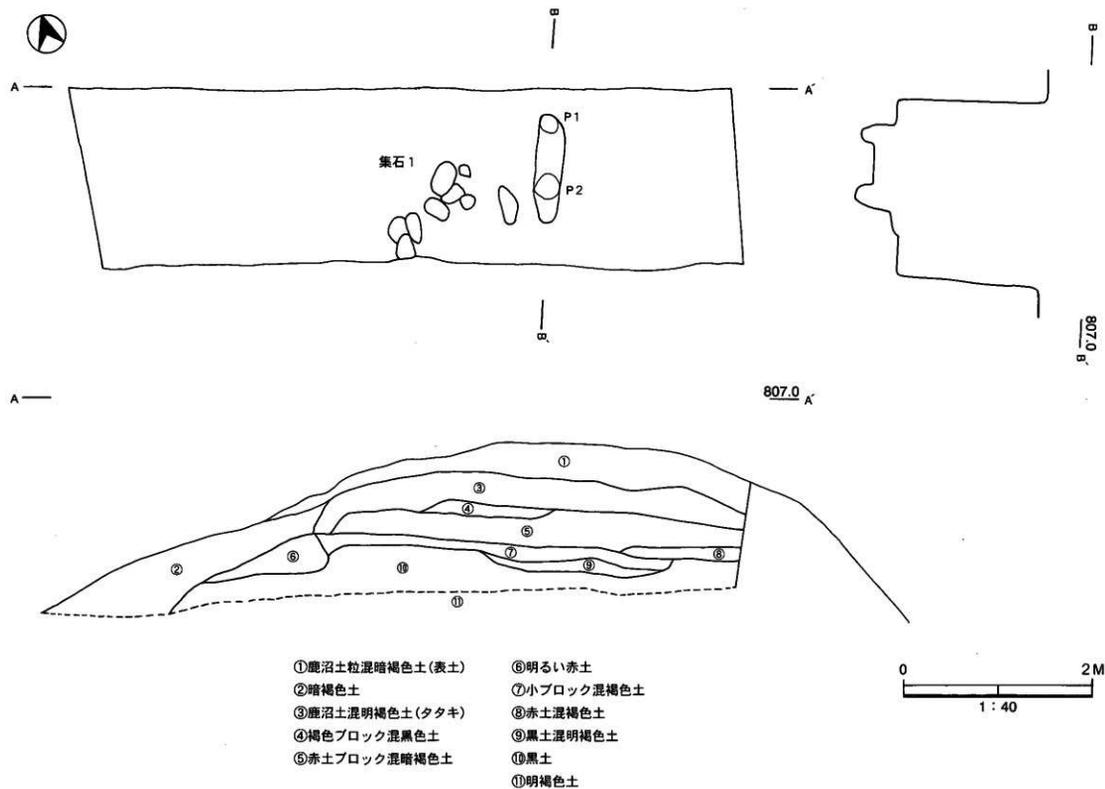
高遠閣内部及び周囲の上下水道管敷設箇所については、立会い調査を実施したが、すべて既存の掘削範囲内に収まり、遺構への影響はほとんどないものと判断した。



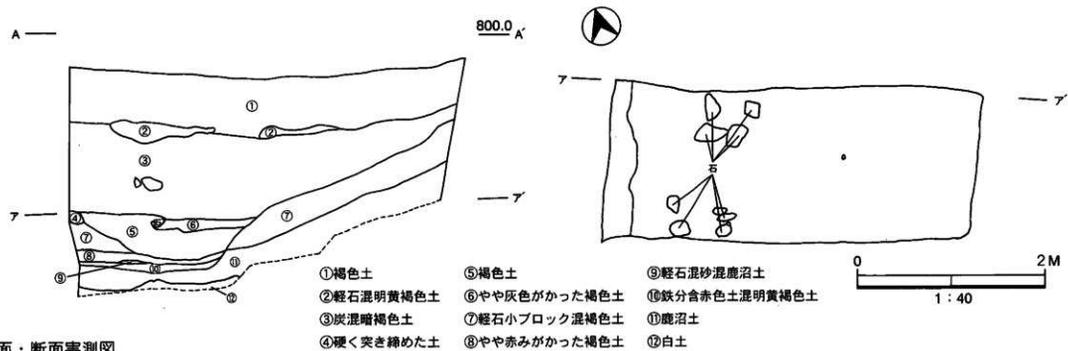
第6図 第1-1トレンチ断面実測図



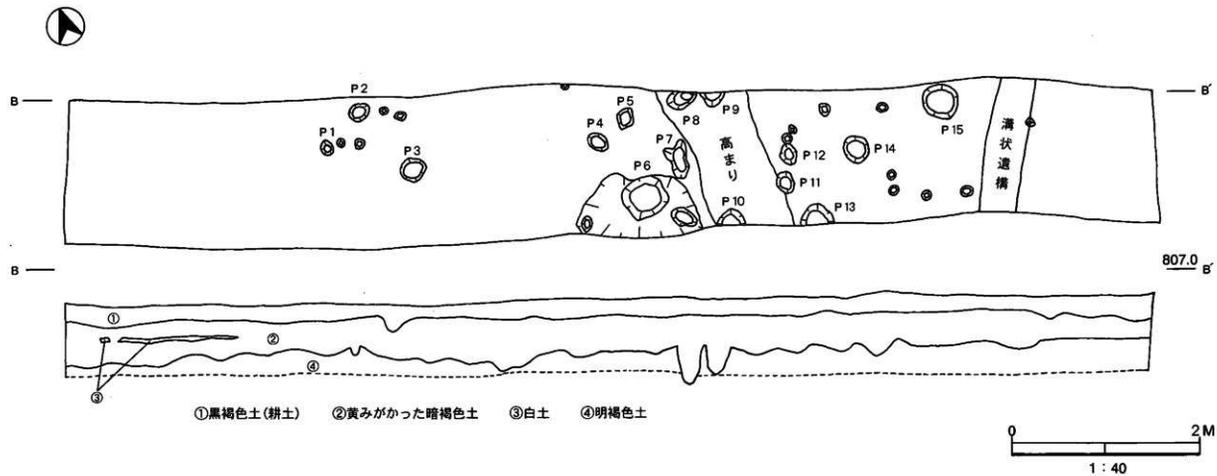
第7図 第1-2トレンチ平面・断面実測図



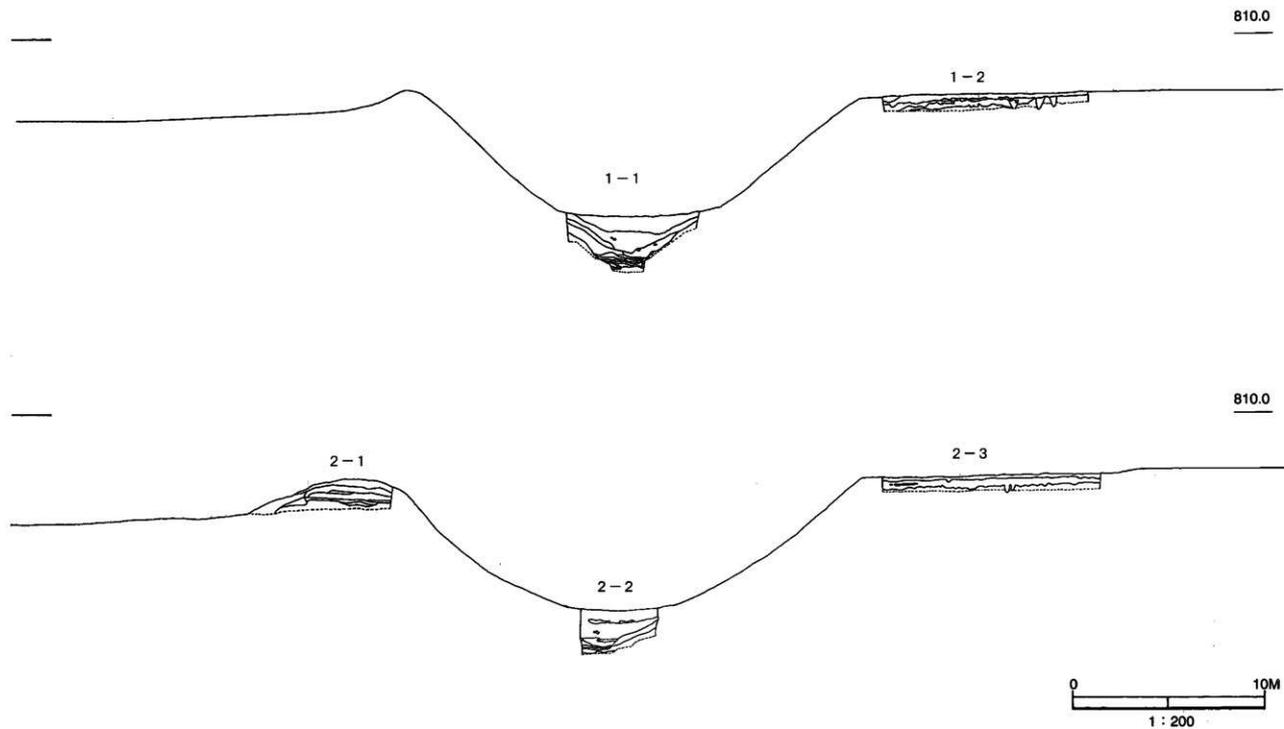
第8図 第2-1トレンチ平面・断面実測図



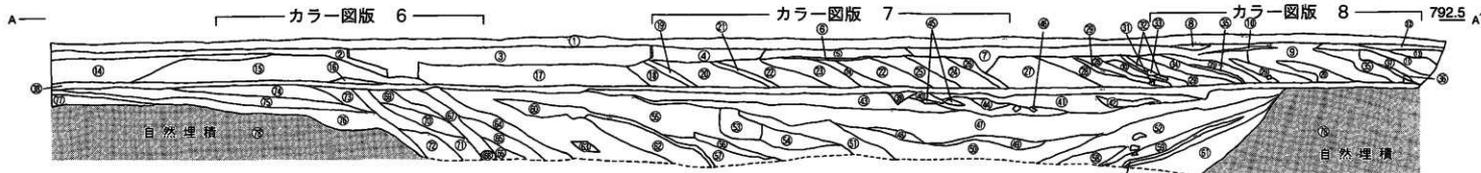
第9図 第2-2トレンチ平面・断面実測図



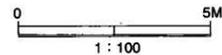
第10図 第2-3トレンチ平面・断面実測図



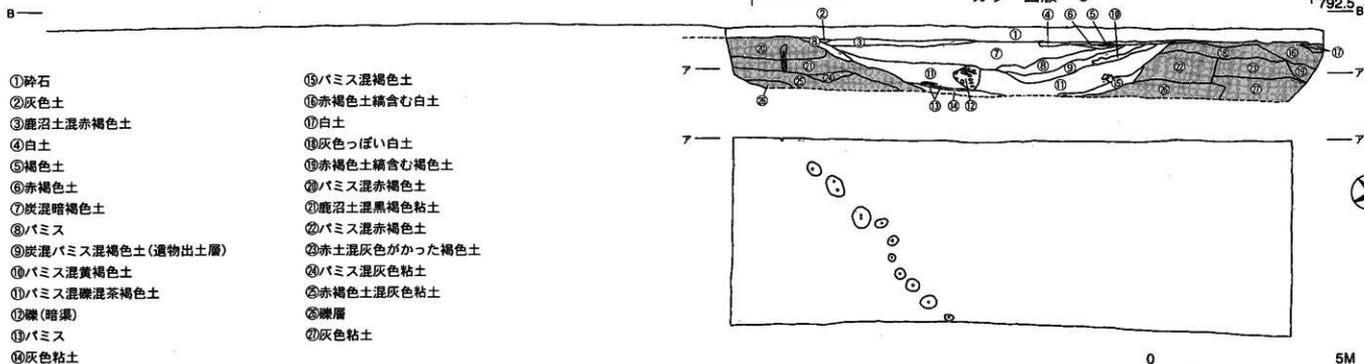
第11図 第1・2トレンチ断面図



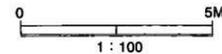
- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------------------|---------------------|
| ① 砕石 | ② 黒褐色土 | ④① 白っぽい褐色土 | ⑥③ 茶褐色ブロック混黒褐色土 |
| ② バミスブロック混明褐色土 | ③ 茶褐ブロック混バミス | ④ 黒褐色土 | ⑥④ バミス混明褐色土 |
| ③ 砂 (高遠高校砂場) | ④ バミス | ⑤ 明褐色土 | ⑥⑤ 明黄褐色土 |
| ④ バミス粒混茶褐色土 | ⑤ バミス粒混茶褐色土 | ⑥ 褐色土 | ⑥⑥ 白土ブロック混灰褐色土 |
| ⑤ 褐色小ブロック混バミス | ⑥ バミス混褐色混茶褐色土 | ⑦ 黒褐色土 | ⑥⑦ 褐色土ブロック混バミス混暗褐色土 |
| ⑥ 黒褐色土 | ⑦ バミス混褐色ブロック混赤褐色土 | ⑧ 茶褐色ブロック | ⑥⑧ 暗褐色土 |
| ⑦ 褐色ブロック混バミスブロック混茶褐色土 | ⑧ バミス混褐色ブロック混赤褐色土 | ⑨ バミス粒混黄褐色土 | ⑥⑨ 白土ブロック混灰褐色土 |
| ⑧ 砂 | ⑨ 褐色ブロック混バミスブロック混明褐色土 | ⑩ バミスブロック混砂 | ⑥⑩ 褐色土ブロック混バミス混暗褐色土 |
| ⑨ バミス混褐色土 | ⑩ バミス粒混褐色土 | ⑪ バミスブロック混暗褐色土混褐色土 | ⑥⑪ 暗褐色土 |
| ⑩ バミス | ⑪ バミス | ⑫ バミス粒混明茶褐色土 | ⑥⑫ 灰 |
| ⑪ バミス混灰褐色土 | ⑫ 褐色土ブロック | ⑬ 混混小石混茶褐色土 | ⑥⑬ 赤土ブロック混褐色土 |
| ⑫ 褐色土 | ⑬ 鹿沼土 | ⑭ 褐色土ブロック混黒色土 | ⑥⑭ 小礫混バミス混褐色土 |
| ⑬ バミス | ⑭ バミス混褐色ブロック | ⑮ 黒色土混バミスブロック混礫 | ⑥⑮ 礫混バミス混明褐色土 |
| ⑭ 礫混小石混黒褐色土 | ⑮ バミス小ブロック混褐色土 | ⑯ 黒色土混バミス混茶褐色土 | ⑥⑯ バミス混黒褐色土 |
| ⑮ バミス混小石混灰褐色土 | ⑯ 褐色ブロック混褐色土 | ⑰ 赤土混黒色土混褐色土 | ⑦① 小石褐色土 |
| ⑯ バミス | ⑰ 暗褐色土混バミス | ⑱ 暗褐色土 | ⑦② 小石混暗褐色土 |
| ⑰ バミスブロック混灰色粘土混明褐色土 | ⑱ バミス混褐色土 | ⑲ バミスブロック混茶褐色土 | ⑦③ 小石混褐色土 |
| ⑱ バミスブロック混褐色土 | ⑲ 暗褐色土 (旧グランド面) | ⑳ 茶褐色土 | ⑦④ 黒褐色土 |
| ⑲ バミス粒混暗褐色土 | ㉑ 茶褐色土 | ㉒ バミス粒混茶褐色土 | ⑦⑤ 茶褐色土 |
| ⑲ バミス混白っぽい褐色土 | ㉒ 暗褐色土 | ㉓ 黒色土 | ⑦⑥ 茶褐色礫層 |



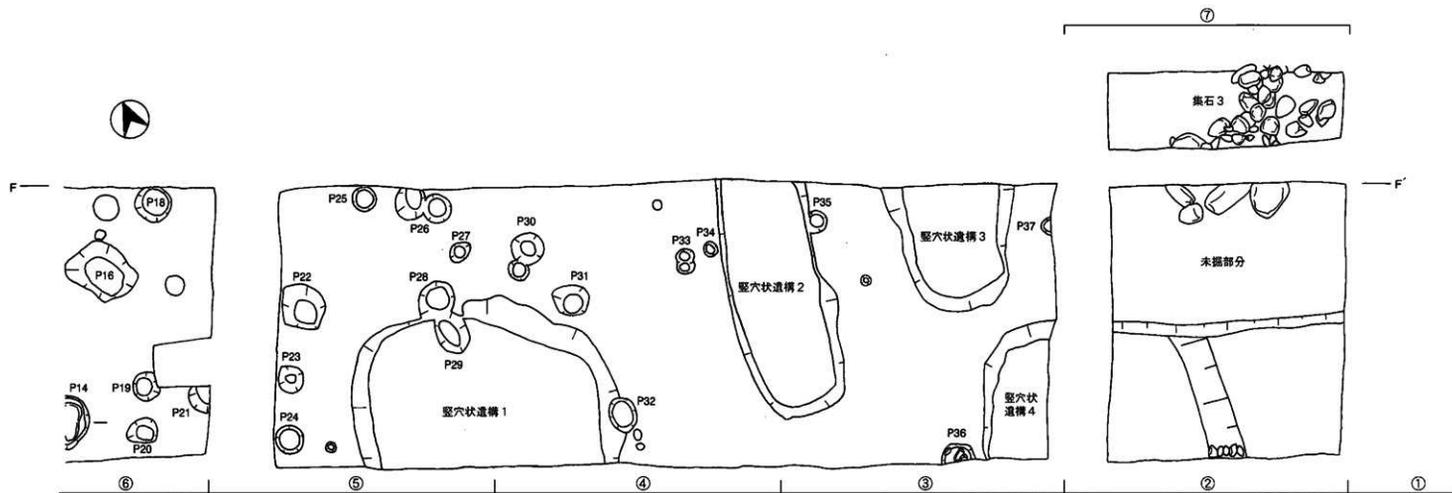
第12図 第3トレンチ断面実測図



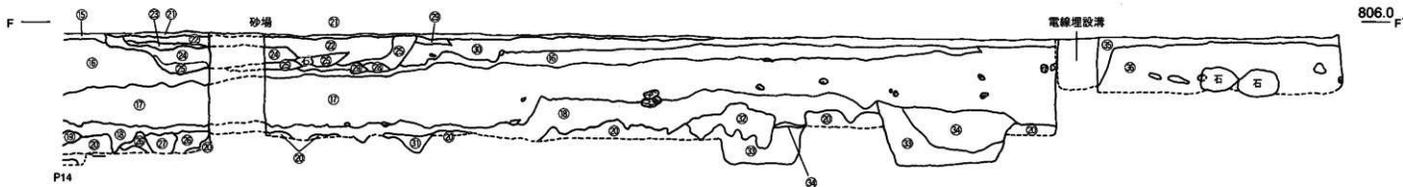
- | | |
|---------------------|----------------|
| ① 砕石 | ⑬ バミス混褐色土 |
| ② 灰色土 | ⑭ 赤褐色土縞含む白土 |
| ③ 鹿沼土混赤褐色土 | ⑮ 白土 |
| ④ 白土 | ⑯ 灰色っぽい白土 |
| ⑤ 褐色土 | ⑰ 赤褐色土縞含む褐色土 |
| ⑥ 赤褐色土 | ⑱ バミス混赤褐色土 |
| ⑦ 炭混暗褐色土 | ⑲ 鹿沼土混黒褐色粘土 |
| ⑧ バミス | ⑲ バミス混赤褐色土 |
| ⑨ 炭混バミス混褐色土 (遺物出土層) | ⑲ 赤土混灰色がかった褐色土 |
| ⑩ バミス混黄褐色土 | ⑲ バミス混灰色粘土 |
| ⑪ バミス混礫混茶褐色土 | ⑲ 赤褐色土混灰色粘土 |
| ⑫ 礫 (暗渠) | ⑲ 礫層 |
| ⑬ バミス | ⑲ 灰色粘土 |
| ⑭ 灰色粘土 | |



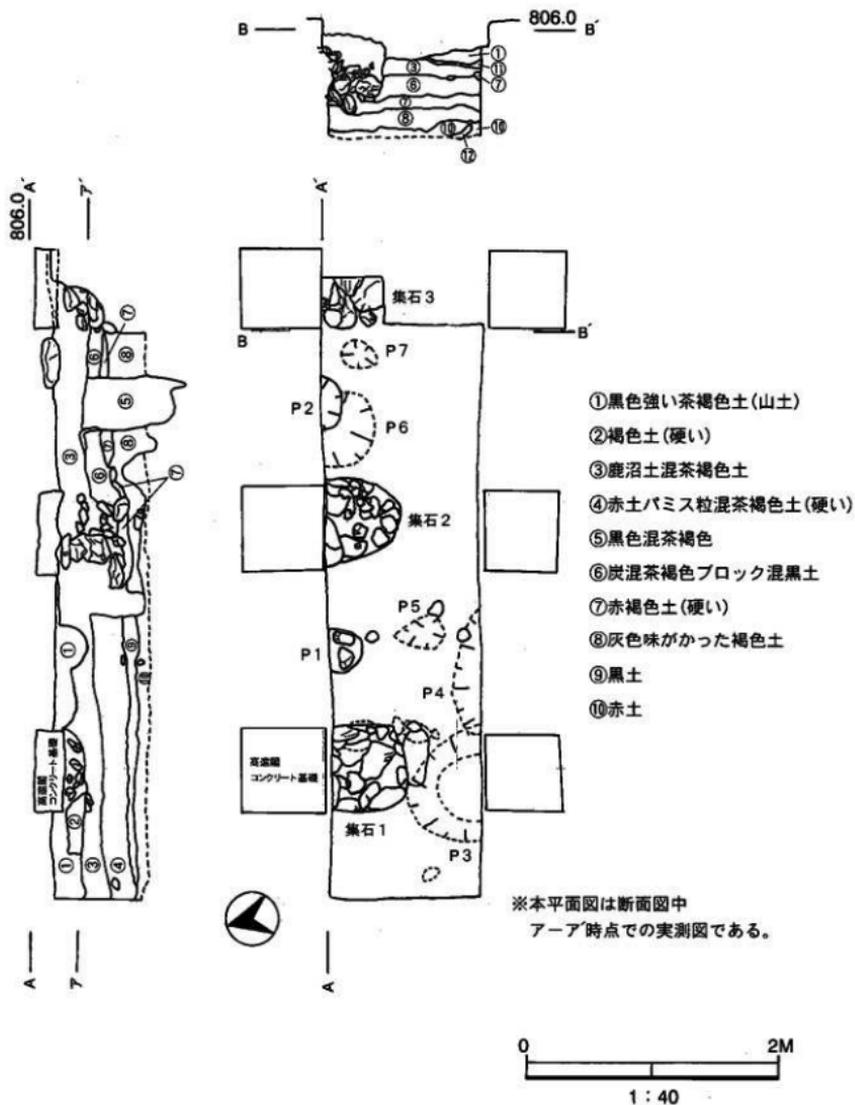
第13図 第4トレンチ平面・断面実測図



- | | | | |
|--------------------------|-------------|-------------------|-----------|
| ⑮ 褐色土混砂 | ⑳ 山砂 | ㉔ 川砂 | ㉙ 川砂混炭含黒土 |
| ⑯ 鹿沼土混軽石粒含赤褐色土(盛土層・10と同) | ㉑ 川砂(保育園砂場) | ㉕ 赤土含細粒川砂 | ㉚ 鹿沼土混褐色土 |
| ⑰ 灰色褐色わずかに炭片含む | ㉒ 赤土混川砂 | ㉖ 明褐色土 | |
| ⑱ 鹿沼土混黒味強い暗褐色土(13と同) | ㉓ やや赤土混川砂 | ㉗ 黒土 | |
| ⑲ 斑黒土赤土混暗褐色土 | ㉔ 赤土ブロック混川砂 | ㉘ やや軽石粒含暗黒土 | |
| ㉑ 赤土(5と同) | ㉕ 暗褐色土 | ㉙ 軽石粒含鹿沼ブロック混明褐色土 | |
| | ㉖ 鹿沼混暗褐色土 | ㉚ やや軽石粒含暗褐色土 | |



第15図 第5トレンチの2平面・断面実測図



第16図 第6トレンチ平面断面実測図

(ア) 集石2と土坑

集石2は東西1m、南北90cmのほぼ円形の集石群で、10cm内外の石が、厚さ15cm程度重なっていた。集石1・2の中からは直径25cm程度と想定される石臼が出土している。集石の下には暗褐色土をはさんで土坑があり、上部の大きさは東西1m50cm、南北90cmで、深さが1mであった。土坑内東側の壁は垂直に近かったが、西側では上部はなだらかに、下部半分は垂直に掘られていた。土坑内には石が4段に積まれており、上から1段目は東西20cm、南北30cm、厚さ6cmの平石、2段目は東西40cm、南北35cm、厚さ20cmの石、3段目は東西35cm、南北50cm、厚さ20cmの石、4段目は東西35cm、南北40cm、厚さ10cmの平石であった。遺構内から遺物の出土はなかった。

出土遺物

本調査区内西側は水道管理設や歩道を作る際に攪乱されており、近代の遺物が多かったが、東側からは15～16世紀の中国白磁片や染付、15世紀末古瀬戸の緑釉皿や腰折皿、16世紀瀬戸美濃産の丸皿等比較的古い遺物も出土している。

ウ 高遠閣床下の発掘調査（第5図、第16図）

高遠閣は昭和11年建築の延べ坪240坪の壮大な木造2階建ての建築物である。築後70年近い年月が経っていて、各所が損傷し危険であることから、登録有形文化財に登録されたのを機に全面的に耐震工事をおこなうこととなった。工事の内容は基礎と柱の補強が中心であり、特に基礎は布基礎とし全面にコンクリートを打つことになり、既に工事は進行していたが、未着手の個所にトレンチを設定し調査を行った。

高遠閣コンクリート基礎の各々の近くに集石1・2・3が確認されたが、基礎の栗石にしては位置がずれている。狭い範囲での調査であり明確に確認できなかったが、高遠閣建設以前の遺構の可能性もある。ここでは表土の下に硬く叩き締められた層が何層もあり、周辺よりも高く造成されていたものと思われる。また、性格不明のピットも確認されている。遺物の出土はなかった。

Ⅲ 平成14年度～15年度調査出土遺物総括

平成14～15年度の調査で出土した遺物の出土点数は1016点（第2表）である（接合したもののについては、合わせて1点とした）。大部分が土器及び陶磁器であり、金属製品、石製品はわずかであった。土器は内耳土器、かわらけ、火鉢等が出土したが、いずれも在地産と思われる。時代別の割合としては、近代以降の遺物が54%を占める。数個の出土に留まる縄文土器片、平安時代の灰軸陶器片を除くと、まとまった量が確認されたのは、15世紀～16世紀の遺物、17世紀後半以降の遺物で、17世紀前半の遺物はほとんど確認できなかった。近世以前の遺物については、瀬戸美濃産が47%であり、ほぼ半数を占める。高遠焼の割合も約1割を占め、在地産の内耳土鍋や火鉢等と合わせると、高遠付近で作られたと考えられるものは2割にのぼる。唐津焼（2%）や伊万里焼（8%）など遠隔地から流入しているものが18世紀以降を中心に見られるようになってくる。

第5章 まとめにかえて

高遠城跡が史跡に指定されたのが、昭和48年である。指定後30年が経過している。なお、高遠城跡は昭和39年8月20日、進徳館は昭和35年2月11日に県史跡に指定されていた。コヒガンザクラは昭和35年2月11日に県天然記念物に指定されている。

史跡指定後、史跡高遠城跡の保存、活用について度々検討がなされている。昭和48年、町住民も参加して『高遠城跡を守る会』が組織され、翌年1月には町文化財保護委員会で高遠城跡の整備、復元について話し合いがなされ、具体的な保存、整備、活用の方法が検討されたようである（北原通男『高遠城跡の復元と整備について』『高遠 第3号』昭和49年9月30日発行）。次いで、昭和61・62年度には『史跡高遠城跡保存管理計画策定委員会』、平成11・12年度には『史跡高遠城跡整備基本計画策定委員会』を組織して保存、整備、活用について検討がなされている。

長野県高遠高等学校の小原地区への移転、二ノ丸内にあった料理店の出張店舗の撤去、私有地の公有地化、便所の改修、新設など目に見えて整備されてきたことも多々あるが、城跡そのものの整備、活用についての取り組みが後れていると思う。

整備事業の前提として、高遠城跡の縄張りがどうなっていたのか、本丸はじめ各曲輪にどんな建物がどのように建っていたのか、橋、土塁、堀などの構造はどうであったかなど基本となる事項の検討が必要である。

今回この調査に関わってみて感じたことは、高遠町には絵図、写真、文献等たくさんの貴重な資料が残されており、また、発掘調査も数回行われているが、これらの資料が十分に整理され活用されていないことである。その原因の一つは行政でおこなう仕事でやむを得ないところもあろうが、この仕事にかかわる担当者が数年ごとに替わっていることにあると思う。財政的に厳しい時期ではあるが、早急に高遠城跡を保護し整備し活用していく組織をつくる必要があると思う。

もう一つ感じたことは、桜が第一。お花見が第一。高遠町のシンボルである桜を第一に考えるのは当然のことであり、史跡である高遠城跡と県天然記念物のコヒガンザクラを両立させて保存、活用していくことが大事であることは言うまでもない。史跡高遠城跡の整備、活用計画の中で、両者を両立させどう調整していくべきか考えていただきたい。推定二ノ丸御門跡の発掘調査と平成14年度に行った発掘調査を除く今まで行った発掘調査は、便所の建設、下水道管の敷設、高遠閣の改修工事といった開発に先立つ緊急発掘調査であった。各曲輪内の遺構の確認を目的とした発掘調査を進めていただきたい。そのためにもしっかりした組織をつくる必要がある。

高遠城跡の残存状況を見ると、本丸、南曲輪、笹曲輪、法幢院曲輪、これらの曲輪をとり巻く堀は廃藩後大きな改変がなされていない。大きく改変されているのは、二ノ丸、三ノ丸の西側と勘介曲輪とその周辺の堀である。今までの発掘調査、絵図等の資料によって、高遠城跡の縄張りを復元することはそう難しくはないと思われる。各曲輪に建っていた橋、櫓門などの建物は、絵図、文献等に規模等の記載はあるが、発掘調査、絵図・文献の検証等による確認がなされていないため現状では復元は難しいと思われる。

町立歴史博物館の中村文彦館長はじめ館職員の皆様には資料の提供など大変お世話になった。ここに厚く御礼申し上げます。

（文責 丸山敏一郎）

〈 参考文献 〉

- | | | |
|--|-------------|-------------------|
| 『史跡高遠城跡保存管理計画策定報告書』 | 高遠町教育委員会 | 昭和63年3月 |
| 『史跡高遠城跡整備基本計画書』 | 高遠町教育委員会 | 平成12年3月 |
| 『高遠城』 | 高遠町文化財保護委員会 | 昭和61年4月12日 |
| 『長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第2巻』 | 長野県文化財保護協会 | 復刻版
昭和49年5月20日 |
| 『長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第7巻』 | 長野県文化財保護協会 | 復刻版
昭和50年9月20日 |
| 『長野県指定文化財調査報告 自第1集至第7集』 | 長野県文化財保護協会 | 復刻版
昭和53年2月5日 |
| 『新版中世出土銭の分類図版』 永井久美男著 | 高志書院 | 平成14年4月20日 |
| 『新編信濃史料叢書 第5巻』『信府統記 上』 | 信濃史料刊行会 | 昭和48年9月15日 |
| 「国立国会図書館所蔵の『日本城郭史資料』について—信濃国(一)・(二)所収資料の紹介—」 | | |
| 『市誌研究ながの』第5号 河西克造著 | 長野市誌編さん委員会 | 平成11年1月 |
| 『瀬戸市史 陶磁史篇 四 瀬戸大窯の時代』 | 瀬戸市史編纂委員会 | 平成5年 |
| 『瀬戸市史 陶磁史篇 五 瀬戸の本業焼』 | 瀬戸市史編纂委員会 | 平成5年 |
| 『瀬戸市史 陶磁史篇 六 近世瀬戸焼の生産と流通』 | 瀬戸市史編纂委員会 | 平成11年 |

あ と が き

今回の発掘調査は、史跡高遠城跡内の堀と土塁の遺構を確認すること、また登録有形文化財である高遠閣の耐震改修工事・下水道管敷設工事に伴っての遺構確認を目的として、平成14年度及び15年度に実施したものであります。

調査からは、埋まってしまう以前の堀の様子や土塁の構造等、高遠城跡の重要な遺構の一端が見えてきました。調査範囲の関係で、十分な理解に至らない遺構もありますが、今後の研究と合わせて史跡整備へつながる貴重な結果が得られたと思います。これらにつきましては文化庁はじめ県教育委員会など関係機関各位、史跡高遠城跡整備実施計画策定委員の諸先生方のご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げますとともに、この報告書の刊行にあたりまして、各関係機関、長野県埋蔵文化財センター調査員の先生方のご協力によりまとめることができましたことに心よりお礼申し上げます。

なお、調査団長をお引き受けいただきました丸山徹一郎先生には大変お忙しいお身体をも省みず陣頭指揮をとっていただきましたことに心よりお礼申し上げます。また、調査期間中、真夏の炎天下や、冬の厳しい寒さという厳しい条件の中でも積極的に作業に参加していただきました発掘作業員の皆さんに心から感謝申し上げます。

高遠町教育委員会

教育次長 伊藤 順一

報告区	建物番号	用途	所在地	時代	備考	建物番号	用途	所在地	時代	備考
シ000001	4-1-2	倉庫	平野	近代	明治前期	シ000001	4-13-10	店舗	平野	近代
シ000002	4-1-21	事務所	平野	近代		シ000002	4-13-21	店舗	平野	平野
シ000003	4-1-22	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡、カウ一階層17	シ000003	4-13-1	大塚	平野	近代以降
シ000004	4-1-25	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000004	4-13-2	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半
シ000005	4-1-27	丸屋	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡、カウ一階層17	シ000005	4-13-3	内口	山崎橋	平野
シ000006	4-1-23	内口	平野	平野		シ000006	4-13-4	倉庫	山崎橋	平野
シ000007	4-1-24	平野	近代			シ000007	4-13-5	平戸橋	藤戸島田	17世紀後半～近代
シ000008	4-1-29	倉庫	平野	近代		シ000008	4-13-22	店舗	山崎橋	平野
シ000009	4-1-3-1	小倉	平野	近代	明治前期	シ000009	4-13-6	倉庫	山崎橋	平野
シ000010	4-1-3-8	倉庫	平野	近代		シ000010	4-13-10	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000011	4-1-3-10	倉庫	平野	近代		シ000011	4-13-12	大塚	坂地	近代以降
シ000012	4-1-3-11	倉庫	平野	近代		シ000012	4-13-20	土蔵	藤戸島田	近世
シ000013	4-1-3-12	平野	平野	近代		シ000013	4-13-21	大塚	坂地	近代以降
シ000014	4-1-3-13	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000014	4-13-24	倉庫	平野	近代
シ000015	4-1-3-14	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000015	4-13-26	土蔵	平野	近代
シ000016	4-1-3-18	平野	平野	近代		シ000016	4-13-35	倉庫	平野	近代～近代
シ000017	4-1-3-19	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000017	4-13-36	倉庫	平野	近代～近代
シ000018	4-1-3-17	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000018	4-13-37	平野	平野	近代～近代
シ000019	4-1-3-18	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000019	4-13-47	灯籠塔	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000020	4-1-3-19	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000020	4-13-48	丸屋	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000021	4-1-3-20	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000021	4-13-49	土蔵	平野	近代～近代
シ000022	4-1-3-21	平野	平野	近代		シ000022	4-13-51	寺倉庫跡	藤戸島田	19世紀後半
シ000023	4-1-3-22	平野	平野	近代		シ000023	4-13-51	寺中庭	平野	不明
シ000024	4-1-3-25	平野	平野	近代	明治前期	シ000024	4-13-54	土蔵	平野	近代
シ000025	4-1-3-26	平野	平野	近代	明治前期	シ000025	4-13-59	平戸橋	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000026	4-1-3-27	平野	平野	近代	明治前期	シ000026	4-13-1	倉庫	藤戸島田	19世紀後半
シ000027	4-1-3-28	平野	平野	近代	明治前期	シ000027	4-13-2	内口	山崎橋	平野
シ000028	4-1-4-1	倉庫	藤戸島田	19世紀後半	遺跡、カウ一階層19	シ000028	4-13-4	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半
シ000029	4-1-4-1	土蔵	平野	近代		シ000029	4-13-5	平野	倉庫	不明
シ000030	4-1-4-1	店舗	平野	平野		シ000030	4-13-7	土蔵	平野	近代～近代
シ000031	4-1-7-1	土蔵	平野	平野		シ000031	4-13-9	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000032	4-1-7-3	土蔵	平野	平野		シ000032	4-13-10	平野	平野	19世紀中ごろ
シ000033	4-1-7-4	土蔵	平野	平野		シ000033	4-13-11	小倉	平野	19世紀中ごろ
シ000034	4-1-7-5	土蔵	平野	平野		シ000034	4-13-13	小倉	平野	19世紀中ごろ
シ000035	4-1-8-1	平戸橋跡	山崎橋	平野		シ000035	4-13-14	土蔵	平野	山崎橋～近代
シ000036	4-1-8-1	倉庫	伊豆長岡	19世紀末～19世紀前半		シ000036	4-13-11	平戸橋	平野	近代
シ000037	4-1-8-1	平野	平野	近代		シ000037	4-13-12	平戸橋	平野	近代
シ000038	4-1-8-2	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡、カウ一階層17	シ000038	4-13-3	平戸橋	平野	近代
シ000039	4-1-11-1	倉庫	平野	近代		シ000039	4-13-4	平戸橋	平野	近代
シ000040	4-1-11-2	倉庫	藤戸島田	19世紀中ごろ	倉庫	シ000040	4-13-8	平戸橋	平野	近代
シ000041	4-1-11-3	倉庫	藤戸島田	19世紀中ごろ	倉庫	シ000041	4-13-8	平戸橋	平野	近代
シ000042	4-1-11-5	土蔵	山崎橋	平野		シ000042	4-13-7	平戸橋	平野	近代
シ000043	4-1-12-1	土蔵	山崎橋	平野		シ000043	4-13-8	平野	平野	近代
シ000044	4-1-13-1	小倉	藤戸島田	19世紀中ごろ		シ000044	4-13-8	平野	平野	近代
シ000045	4-1-14-1	小倉	藤戸島田	19世紀中ごろ		シ000045	4-13-11	徳次ノイブ	平野	近代
シ000046	4-1-18-1	倉庫	藤戸島田	19世紀中ごろ		シ000046	4-13-12	石ノヤブ	平野	近代
シ000047	4-1-19-2	倉庫	藤戸島田	19世紀中ごろ		シ000047	4-13-12	倉庫	藤戸島田	19世紀中～近世
シ000048	4-1-19-6	FV橋	山崎橋	平野		シ000048	4-13-2	倉庫	藤戸島田	19世紀中～近世
シ000049	4-1-18-1	灯籠塔	藤戸島田	19世紀末～19世紀前半	遺跡	シ000049	4-13-5	小倉	平野	明治29年以降
シ000050	4-1-18-2	小倉	藤戸島田	19世紀後半		シ000050	4-13-6	事務所	山崎橋	倉庫
シ000051	4-1-17-1	FV橋	山崎橋	平野		シ000051	4-13-7	石	平野	不明
シ000052	4-1-18-1	一階層	伊豆長岡	19世紀末～19世紀前半	カウ一階層17	シ000052	4-13-8	土蔵	山崎橋	平野
シ000053	4-1-18-1	事務所	藤戸島田	19世紀中ごろ		シ000053	4-13-9	土蔵	平野	不明
シ000054	4-1-18-1	土蔵	平野	平野		シ000054	4-13-12	灯籠塔	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000055	4-1-18-2	土蔵	平野	平野		シ000055	4-13-14	倉庫	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000056	4-1-18-1	倉庫	近代			シ000056	4-13-16	燈籠?	山崎橋	平野
シ000057	4-1-18-2	土竹	山崎橋	平野		シ000057	4-13-18	燈籠?	山崎橋	平野
シ000058	4-1-18-3	FV橋	近代			シ000058	4-13-19	燈籠?	山崎橋	平野
シ000059	4-1-21-1	一階層	山崎橋	平野		シ000059	4-13-20	平野	山崎橋	平野
シ000060	4-1-21-5	FV橋	藤戸島田	江戸時代	遺跡	シ000060	4-13-21	平野	不明	不明
シ000061	4-1-22-1	FV橋	藤戸島田	江戸時代	遺跡	シ000061	4-13-23	事務所	山崎橋	不明
シ000062	4-1-22-1	FV橋	山崎橋	江戸時代	遺跡	シ000062	4-13-24	倉庫	平野	カウ一階層19
シ000063	4-1-23-8	燈籠	平野	近代		シ000063	4-13-48	倉庫	平野	カウ一階層19
シ000064	4-1-23-10	大塚	不明			シ000064	4-13-51	倉庫	平野	不明
シ000065	4-1-23-12	燈籠	平野	平野		シ000065	4-13-52	灯籠	藤戸島田	19世紀末～19世紀後半
シ000066	4-1-23-13	土蔵	近代(土蔵内蔵のみ)			シ000066	4-13-53	大塚	近代	
シ000067	4-1-23-14	倉庫	平野	平野		シ000067	4-13-54	土竹	山崎橋	平野
シ000068	4-1-23-16	倉庫	近代(土蔵内蔵のみ)			シ000068	4-13-24	大塚	近代	江戸末期
シ000069	4-1-23-17	平野	近代			シ000069	4-13-25	FV橋	藤戸島田	近代
シ000070	4-1-23-18	燈籠?	平野	平野		シ000070	4-13-26	大塚	近代	江戸末期
シ000071	4-1-23-19	燈籠?	平野	平野		シ000071	4-13-27	FV橋	藤戸島田	近代

調査区	建物番号	種類	所在地	時代	備考	建物番号	種類	所在地	時代	備考
	○D02083-1-2-1-6	瓦葺戸建	神戸市東灘区	17世紀後半	直造、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-8	平葺	神戸市東灘区	江戸時代	直造、瓦葺平葺
	○D02083-1-2-1-7	大瓦	伊丹市	近代	カウー一階建21	○D02083-1-2-1-7	平葺	伊丹市	平安時代	直造、カウー一階建21
	○D02083-1-2-1-7	瓦葺	神戸市東灘区	大瓦3階、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-8	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀	大瓦、カウー一階建21	
	○D02083-1-2-1-8	瓦葺	茨木市	18～19世紀前半	カウー一階建21	○D02083-1-2-1-8	瓦葺	神戸市東灘区	18～19世紀前半	直造、カウー一階建21
	○D02083-1-2-1-9	和瓦葺	神戸市東灘区	17世紀前半	直造、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-9	瓦葺	伊丹市	平葺	
	○D02083-1-2-1-11	Y形棟	神戸市東灘区	江戸時代	直造、カウー一階建22	○D02083-1-2-1-11	小瓦	神戸市東灘区	近世	カウー一階建21
	○D02083-1-2-1-12	小瓦	平葺	近代		○D02083-1-2-1-12	平葺	伊丹市	近代	
	○D02083-1-2-1-13	カウラス	平葺	近代		○D02083-1-2-1-13	瓦葺	伊丹市	15～18世紀	
	○D02083-1-2-1	瓦葺、瓦片	神戸市東灘区	江戸時代	直造1階、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-4	瓦葺	伊丹市	平葺	
	○D02083-1-2-1-2	瓦葺	平葺	平葺		○D02083-1-2-1-5	平葺	伊丹市	近代	
	○D02083-1-2-1-2	瓦葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-6	瓦葺?	伊丹市	平葺	
	○D02083-1-2-1-3	平葺	伊丹市	近世		○D02083-1-2-1-7	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造
	○D02083-1-2-1-4	小瓦?	伊丹市	近世		○D02083-1-2-1-8	平葺	伊丹市?	18世紀末～19世紀前半	
	○D02083-1-2-1-5	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀前半	大瓦	○D02083-1-2-1-9	平葺	伊丹市?	18世紀末～19世紀前半	
	○D02083-1-2-1-6	瓦葺	神戸市東灘区	大瓦		○D02083-1-2-1-10	平葺	近代		
	○D02083-1-2-1-7	平葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-11	平葺	近代		
	○D02083-1-2-1-8	平葺	神戸市東灘区	江戸時代		○D02083-1-2-1-12	平葺	近代		
	○D02083-1-2-1-9	瓦葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-13	カウラス	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-10	瓦葺	平葺	15～18世紀		○D02083-1-2-1-14	瓦葺	伊丹市	15～18世紀	
	○D02083-1-2-1-11	瓦?	伊丹市	近世		○D02083-1-2-1-15	瓦?	伊丹市	近代	
	○D02083-1-2-1-12	瓦葺	神戸市東灘区	江戸時代	直造、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-16	小瓦	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-13	瓦	神戸市東灘区	平葺		○D02083-1-2-1-17	瓦葺	伊丹市	近世	カウー一階建21
	○D02083-1-2-1	瓦葺	平葺	平葺	香取寺	○D02083-1-2-1-18	カウラス	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1	瓦葺、瓦片	神戸市東灘区	18～19世紀前半	瓦葺	○D02083-1-2-1-19	カウラス	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-2	Y形棟	神戸市東灘区	18世紀	大瓦、カウー一階建21	○D02083-1-2-1-20	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-3	瓦葺	平葺	15～18世紀	カウー一階建21	○D02083-1-2-1-21	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-3	瓦葺	神戸市東灘区	18～19世紀前半	瓦葺	○D02083-1-2-1-22	瓦葺	平葺	近代	
5-3	○D02083-1-2-1-1	瓦葺	瓦葺?	近代	カウー一階建22	○D02083-1-2-1-23	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀後半	
	○D02083-1-2-1-2	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀	カウー一階建22	○D02083-1-2-1-24	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀後半	直造、瓦葺
	○D02083-1-2-1-3	瓦葺	神戸市東灘区	17世紀後半	直造、カウー一階建22	○D02083-1-2-1-25	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造、瓦葺
	○D02083-1-2-1-4	瓦葺	伊丹市	17世紀		○D02083-1-2-1-26	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造、瓦葺
	○D02083-1-2-1-5	Y形棟	神戸市東灘区	18世紀前半		○D02083-1-2-1-27	瓦葺	伊丹市?	18世紀以降	カウー一階建22
	○D02083-1-2-1-6	瓦葺	神戸市東灘区	近代		○D02083-1-2-1-28	瓦葺	伊丹市	18世紀前半	瓦葺
	○D02083-1-2-1-7	平葺	伊丹市	18世紀末～19世紀前半		○D02083-1-2-1-29	瓦葺	近代		
	○D02083-1-2-1-8	瓦	近畿圏系	18世紀末～19世紀前半		○D02083-1-2-1-30	瓦葺	伊丹市	15世紀末～18世紀前半	Y形棟
	○D02083-1-2-1-9	平葺	近畿圏系	18世紀末～19世紀前半		○D02083-1-2-1-31	瓦葺	近代		
	○D02083-1-2-1-10	瓦?	近畿圏系	18世紀末～19世紀前半	カウー一階建22	○D02083-1-2-1-32	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀前半	カウー一階建22
	○D02083-1-2-1-11	瓦葺	平葺	15～18世紀		○D02083-1-2-1-33	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-12	瓦	近代			○D02083-1-2-1-34	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀	瓦葺
	○D02083-1-2-1-13	瓦?	近代			○D02083-1-2-1-35	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造
	○D02083-1-2-1-14	瓦?	近代			○D02083-1-2-1-36	瓦葺	伊丹市?	18世紀	
	○D02083-1-2-1-15	瓦葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-37	瓦葺	伊丹市?	18世紀以降	
	○D02083-1-2-1-16	平葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-38	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-17	瓦葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-39	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-18	瓦?	平葺	近代		○D02083-1-2-1-40	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-19	瓦	平葺	近代		○D02083-1-2-1-41	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀後半	
	○D02083-1-2-1-20	瓦	平葺	近代		○D02083-1-2-1-42	瓦	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-21	瓦?	平葺	近代		○D02083-1-2-1-43	瓦	伊丹市	18世紀前半	平葺
	○D02083-1-2-1-22	瓦	平葺	近代		○D02083-1-2-1-44	瓦	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-23	瓦葺	平葺	近代		○D02083-1-2-1-45	瓦葺	伊丹市?	18世紀	
	○D02083-1-2-1-24	カウラス	平葺	近代		○D02083-1-2-1-46	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-25	カウラス	平葺	近代		○D02083-1-2-1-47	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-26	カウラス	平葺	近代		○D02083-1-2-1-48	瓦	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-27	Y形棟	平葺	近代	仏堂縁起書	○D02083-1-2-1-49	カウラス	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-28	瓦葺	平葺	香取寺		○D02083-1-2-1-50	カウラス	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-29	瓦	平葺	平葺		○D02083-1-2-1-51	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-30	瓦	平葺	平葺		○D02083-1-2-1-52	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-31	瓦葺	伊丹市	18世紀末～19世紀前半	Y形、カウー一階建22	○D02083-1-2-1-53	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-32	瓦葺	伊丹市	18世紀前半～18世紀		○D02083-1-2-1-54	カウラス	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-33	瓦葺	直造	直造		○D02083-1-2-1-55	カウラス	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-34	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造	○D02083-1-2-1-56	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-35	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造	○D02083-1-2-1-57	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-36	平葺	近代			○D02083-1-2-1-58	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-37	瓦口	江戸時代	詳細縁起書		○D02083-1-2-1-59	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-38	小瓦?	平葺			○D02083-1-2-1-60	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-39	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造	○D02083-1-2-1-61	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀前半	大瓦
	○D02083-1-2-1-40	瓦	伊丹市	江戸時代		○D02083-1-2-1-62	瓦葺	平葺	近代	
	○D02083-1-2-1-41	瓦葺	神戸市東灘区	17世紀後半	直造 瓦葺土蔵、Y形	○D02083-1-2-1-63	瓦葺	近代		
	○D02083-1-2-1-42	瓦葺	神戸市東灘区	17世紀末～19世紀前半		○D02083-1-2-1-64	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀	大瓦
	○D02083-1-2-1-43	瓦葺	直造	カウー一階建22		○D02083-1-2-1-65	瓦葺	18世紀	大瓦	
	○D02083-1-2-1-44	瓦葺	直造	カウー一階建22		○D02083-1-2-1-66	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-45	瓦葺	神戸市東灘区	18世紀末～19世紀前半	直造	○D02083-1-2-1-67	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-46	平葺	近代			○D02083-1-2-1-68	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-47	瓦葺	江戸時代			○D02083-1-2-1-69	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-48	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-70	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-49	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-71	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-50	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-72	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-51	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-73	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-52	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-74	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-53	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-75	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-54	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-76	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-55	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-77	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-56	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-78	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-57	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-79	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-58	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-80	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-59	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-81	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-60	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-82	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-61	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-83	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-62	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-84	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-63	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-85	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-64	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-86	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-65	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-87	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-66	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-88	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-67	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-89	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-68	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-90	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-69	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-91	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-70	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-92	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-71	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-93	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-72	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-94	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-73	瓦葺	平葺			○D02083-1-2-1-95	瓦葺	平葺	平葺	
	○D02083-1-2-1-74									

調査区	建物番号	屋種	産地等	時期	備考	建物番号	屋種	産地等	時代	備考
	シ000001-3-3-4-11	瓦?	不明	不明		シ000020-3-3-3-3	瓦	伊豆伊豆	18世紀	海の文化遺産 鳥島島
	シ000002-3-3-4-12	瓦葺	瀬戸産瓦	18世紀前半-中期	大黒 瓦葺	シ000004-3-3-3-1	瓦葺	不明	18世紀	
	シ000003-3-3-4-13	不明	伊豆瓦	不明		シ000006-3-3-3-2	瓦葺	不明	18世紀	
	シ000005-3-3-4-4	葺	不明	不明		シ000008-3-3-3-3	瓦葺	不明	18世紀	
	シ000009-3-3-3-5-1	不明	近代			シ000010-3-3-3-4	瓦葺	不明	18世紀	
3-4	シ000025-3-4-1-1	瓦葺	瀬戸産瓦	18世紀末-19世紀初頭	葺 瓦葺	シ000027-3-4-1-1	不明	不明	近代	
	シ000026-3-4-1-2	不明	近代			シ000027-3-4-1-2	不明	不明	近代	
	シ000028-3-4-1-3	不明	近代			シ000027-3-4-1-3	不明	不明	近代	
	シ000029-3-4-1-4	不明?	瓦葺	18世紀前半	カラ一屋根23	シ000027-3-4-1-4	不明	不明	近代	
	シ000030-3-4-1-5	瓦葺	瀬戸産瓦	18世紀初頭	瓦葺	シ000027-3-4-1-5	不明	瓦葺	18世紀末-19世紀初頭	
	シ000031-3-4-1-6	瓦葺	瀬戸産瓦	18世紀前半	大黒瓦葺、カラ一屋根23	シ000027-3-4-1-6	不明	不明	近代	
	シ000032-3-4-1-7	瓦葺	不明	近代		シ000027-3-4-1-7	不明	不明	近代	
	シ000033-3-4-1-8	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-8	不明	不明	近代	
	シ000034-3-4-1-9	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-9	不明	不明	近代	
	シ000035-3-4-1-10	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-10	不明	不明	近代	
	シ000036-3-4-1-11	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-11	不明	不明	近代	
	シ000037-3-4-1-12	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-12	不明	不明	近代	
	シ000038-3-4-1-13	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-13	不明	不明	近代	
	シ000039-3-4-1-14	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-14	不明	不明	近代	
	シ000040-3-4-1-15	瓦葺	近代			シ000027-3-4-1-15	不明	不明	近代	
	シ000041-3-4-2-1	瓦葺	不明	不明		シ000028-3-4-2-1	不明	不明	近代	
	シ000042-3-4-2-2	不明	近代			シ000028-3-4-2-2	不明	不明	近代	
	シ000043-3-4-2-3	不明	近代			シ000028-3-4-2-3	不明	不明	近代	
	シ000044-3-4-2-4	不明	近代			シ000028-3-4-2-4	不明	不明	近代	
	シ000045-3-4-2-5	不明	近代			シ000028-3-4-2-5	不明	不明	近代	
	シ000046-3-4-2-6	不明	近代			シ000028-3-4-2-6	不明	不明	近代	
	シ000047-3-4-2-7	不明	近代			シ000028-3-4-2-7	不明	不明	近代	
	シ000048-3-4-2-8	不明	近代			シ000028-3-4-2-8	不明	不明	近代	
	シ000049-3-4-2-9	不明	近代			シ000028-3-4-2-9	不明	不明	近代	
	シ000050-3-4-2-10	不明	近代			シ000028-3-4-2-10	不明	不明	近代	
	シ000051-3-4-2-11	不明	近代			シ000028-3-4-2-11	不明	不明	近代	
	シ000052-3-4-2-12	不明	近代			シ000028-3-4-2-12	不明	不明	近代	
	シ000053-3-4-2-13	不明	近代			シ000028-3-4-2-13	不明	不明	近代	
	シ000054-3-4-2-14	不明	近代			シ000028-3-4-2-14	不明	不明	近代	
	シ000055-3-4-2-15	不明	近代			シ000028-3-4-2-15	不明	不明	近代	
	シ000056-3-4-2-16	不明	近代			シ000028-3-4-2-16	不明	不明	近代	
	シ000057-3-4-2-17	不明	近代			シ000028-3-4-2-17	不明	不明	近代	
	シ000058-3-4-2-18	不明	近代			シ000028-3-4-2-18	不明	不明	近代	
	シ000059-3-4-2-19	不明	近代			シ000028-3-4-2-19	不明	不明	近代	
	シ000060-3-4-2-20	不明	近代			シ000028-3-4-2-20	不明	不明	近代	
	シ000061-3-4-2-21	不明	近代			シ000028-3-4-2-21	不明	不明	近代	
	シ000062-3-4-2-22	不明	近代			シ000028-3-4-2-22	不明	不明	近代	
	シ000063-3-4-2-23	不明	近代			シ000028-3-4-2-23	不明	不明	近代	
	シ000064-3-4-2-24	不明	近代			シ000028-3-4-2-24	不明	不明	近代	
	シ000065-3-4-2-25	不明	近代			シ000028-3-4-2-25	不明	不明	近代	
	シ000066-3-4-2-26	不明	近代			シ000028-3-4-2-26	不明	不明	近代	
	シ000067-3-4-2-27	不明	近代			シ000028-3-4-2-27	不明	不明	近代	
	シ000068-3-4-2-28	不明	近代			シ000028-3-4-2-28	不明	不明	近代	
	シ000069-3-4-2-29	不明	近代			シ000028-3-4-2-29	不明	不明	近代	
	シ000070-3-4-2-30	不明	近代			シ000028-3-4-2-30	不明	不明	近代	
	シ000071-3-4-2-31	不明	近代			シ000028-3-4-2-31	不明	不明	近代	
	シ000072-3-4-2-32	不明	近代			シ000028-3-4-2-32	不明	不明	近代	
	シ000073-3-4-2-33	不明	近代			シ000028-3-4-2-33	不明	不明	近代	
	シ000074-3-4-2-34	不明	近代			シ000028-3-4-2-34	不明	不明	近代	
	シ000075-3-4-2-35	不明	近代			シ000028-3-4-2-35	不明	不明	近代	
	シ000076-3-4-2-36	不明	近代			シ000028-3-4-2-36	不明	不明	近代	
	シ000077-3-4-2-37	不明	近代			シ000028-3-4-2-37	不明	不明	近代	
	シ000078-3-4-2-38	不明	近代			シ000028-3-4-2-38	不明	不明	近代	
	シ000079-3-4-2-39	不明	近代			シ000028-3-4-2-39	不明	不明	近代	
	シ000080-3-4-2-40	不明	近代			シ000028-3-4-2-40	不明	不明	近代	

行政区	宝物番号	種類	産地等	時代	備考	宝物番号	種類	産地等	時代	備考
	シ003215-5-8-2-2	大銀貨	平朝	平朝	カウ一銀貨28	シ003211-5-8-8-7	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-3	銀口	瀬戸島田	14世紀	大銀、カウ一銀貨28	シ003211-5-8-8-6	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-4	小銀貨	平朝	平朝		シ003211-5-8-8-5	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-5	銀	平朝	近代		シ003211-5-8-8-10	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-6	タムラ	平朝	平朝		シ003211-5-8-8-11	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-7	土師器	平朝	中世古瓦葺い		シ003211-5-8-8-12	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-8	かわらけ	平朝	平朝	カウ一銀貨28	シ003211-5-8-8-9	新編(丸屋)	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-9	銅文土器	平朝	縄文時代		シ003217-5-8-8-7-1	銀	平朝	近世一近代	
	シ003215-5-8-2-10	土瓦	平朝	古瓦		シ003217-5-8-8-7-2	銀	平朝	近世一近代	
	シ003215-5-8-2-12	丸瓦	瀬戸島田	14世紀	大銀	シ003217-5-8-8-7-3	新編丸屋	瀬戸島田	14世紀	近世
	シ003215-5-8-2-13	石瓦葺き	中朝	平朝	事件、カウ一銀貨28	シ003217-5-8-8-7-6	銀	伊予守	14世紀前半～14世紀後半	V遺
	シ003215-5-8-2-14	小皿	中朝	15～18世紀	白銀、カウ一銀貨28	シ003217-5-8-8-7-8	不明(徳川)	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-15	小皿	中朝	15～18世紀	白銀、カウ一銀貨28	シ003217-5-8-8-7-7	大銀	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-16	小皿	中朝	15～18世紀	白銀	シ003217-5-8-8-7-8	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-17	平朝	伊予守?中朝口瓦?	平朝		シ003217-5-8-8-7-9	陶磁器	新編系	14世紀後半～14世紀前半	
	シ003215-5-8-2-18	平朝	伊予守	近代		シ003217-5-8-8-7-10	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-19	丸瓦	瀬戸島田	14世紀中頃	大銀、カウ一銀貨28	シ003217-5-8-8-7-11	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-20	丸瓦	瀬戸島田	14世紀中頃	大銀、カウ一銀貨28	シ003217-5-8-8-7-12	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-21	丸瓦	瀬戸島田	14世紀	大銀	シ003217-5-8-8-7-13	新編口瓦	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-22	御用金	瀬戸島田	14世紀末	吉原戸	シ003217-5-8-8-7	銀	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-23	丸瓦	瀬戸島田	14世紀	大銀	シ003222-5-8-8-1	新編小皿	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-24	丸瓦	瀬戸島田	14世紀前半	大銀	シ003222-5-8-8-2	銀	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-25	丸瓦	瀬戸島田	14世紀中頃	大銀	シ003222-5-8-8-3	銀	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-26	丸瓦	瀬戸島田	14世紀中頃	大銀	シ003222-5-8-8-4	新編小皿	瀬戸島田	14世紀前半～14世紀後半	吉原戸
	シ003215-5-8-2-27	新編系	瀬戸島田	14世紀末～14世紀初頭	吉原戸	シ003222-5-8-8-5	新編小皿	瀬戸島田	14世紀末～14世紀初頭	吉原戸、カウ一銀貨28
	シ003215-5-8-2-28	丸瓦	瀬戸島田	14世紀	大銀	シ003222-5-8-8-6	新編系	瀬戸島田	14世紀後半～14世紀初頭	近世
	シ003215-5-8-2-29	平朝	伊予守?中朝口瓦?	平朝		シ003222-5-8-8-7	丸瓦	瀬戸島田	14世紀後半	大銀
	シ003215-5-8-2-30	平朝	伊予守	近代		シ003222-5-8-8-8	新編系	口瓦	14世紀	
	シ003215-5-8-2-31	土瓦	平朝	古瓦		シ003222-5-8-8-9	新編系	口瓦	14世紀	
	シ003215-5-8-2-32	伊予守	平朝	平朝		シ003222-5-8-8-10	平朝	近代		
	シ003215-5-8-2-33	伊予守	平朝	平朝		シ003222-5-8-8-11	かわらけ	平朝	平朝	カウ一銀貨28
	シ003215-5-8-2-34	古銀	平朝	平朝		シ003222-5-8-8-12	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-35	金口銀?	平朝	平朝		シ003212-5-8-8-13	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-36	金口	平朝	平朝		シ003212-5-8-8-14	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-37	金口	平朝	平朝		シ003212-5-8-8-15	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-38	銀口	平朝	平朝	カウ一銀貨27	シ003212-5-8-8-16	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-39	銀口	平朝	平朝	カウ一銀貨27	シ003212-5-8-8-17	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-40	瓦	平朝	江戸時代以降		シ003212-5-8-8-18	伊予守	近代		口瓦あり
	シ003215-5-8-2-41	瓦	平朝	江戸時代以降		シ003212-5-8-8-19	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-42	瓦	平朝	江戸時代以降		シ003212-5-8-8-20	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-43	大銀	近世	近世		シ003212-5-8-8-21	伊予守	平朝	近代	
	シ003215-5-8-2-44	平朝	近世?	14世紀末～14世紀初頭		シ003212-5-8-8-22	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-45	新編系	近世徳川?	平朝	カウ一銀貨28	シ003212-5-8-8-23	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-46	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-24	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-47	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-25	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-48	瓦	平朝	近代		シ003212-5-8-8-26	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-49	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-27	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-50	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-28	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-51	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-29	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-52	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-30	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-53	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-31	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-54	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-32	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-55	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-33	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-56	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-34	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-57	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-35	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-58	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-36	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-59	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-37	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-60	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-38	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-61	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-39	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-62	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-40	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-63	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-41	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-64	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-42	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-65	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-43	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-66	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-44	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-67	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-45	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-68	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-46	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-69	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-47	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-70	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-48	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-71	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-49	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-72	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-50	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-73	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-51	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-74	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-52	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-75	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-53	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-76	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-54	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-77	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-55	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-78	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-56	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-79	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-57	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-80	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-58	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-81	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-59	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-82	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-60	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-83	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-61	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-84	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-62	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-85	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-63	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-86	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-64	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-87	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-65	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-88	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-66	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-89	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-67	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-90	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-68	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-91	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-69	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-92	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-70	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-93	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-71	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-94	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-72	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-95	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-73	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-96	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-74	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-97	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-75	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-98	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-76	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-99	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-77	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-100	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-78	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-101	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-79	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-102	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-80	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-103	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-81	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-104	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-82	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-105	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-83	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-106	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-84	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-107	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-85	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-108	伊予守	平朝	近代		シ003212-5-8-8-86	伊予守	近代		
	シ003215-5-8-2-109	伊予守	平							



1. 第1-2トレンチ三ノ丸調査前



2. 第1-2トレンチ土層断面



3. 第2-3トレンチピットの状況(南から)



4. 第2-3トレンチピットの状況(南から)



5. グランド調査前の状況
(第4トレンチの付近)



6. グランド調査前の状況
(第3トレンチの付近)



7. 第5トレンチ調査前



8. 第5トレンチ調査前



9. 第5-6トレンチ遺構の状況



10. 第5-5トレンチ竪穴状遺構1の状況



11. 第5トレンチ竪穴状遺構1・2の状況



12. 第5トレンチ竪穴状遺構2・3・4の状況



13. 第5-2トレンチの状況



14. 第5-7トレンチ集石3の状況



15. 第5トレンチ全景 (東から)



16. 第5-8トレンチ調査前 (西から)



17. 第5-8トレンチ全景 (東から)



18. 第5-8トレンチ石垣1・2の
状況 (西から)



19. 石垣1の状況(東から)



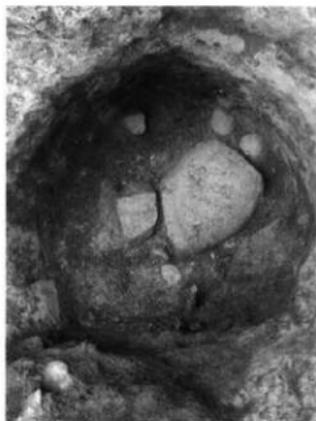
20. 石垣2の状況(東から)



21. 第5-8トレンチピットの状況(南から)



22. 第5-8トレンチ集石1・2の状況
(南から)



23. 第5-8トレンチ土坑1の状況
(南から)



24. 第6トレンチ調査前（西から）



25. 第6トレンチ集石検出時の状況（西から）



26. 第6トレンチ集石1の状況



27. 第6トレンチ全景（西から）



28. 第6トレンチピット2の状況



29. 第6トレンチ土層断面

報告書抄録

ふりがな	しせきたかとおじょうせきにのまる・さんのまるほか							
書名	史跡高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか							
副書名	史跡高遠城跡試掘調査							
巻次								
シリーズ名	埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	丸山 敏一郎							
編集機関	高遠町教育委員会							
所在地	〒396-0292 長野県上伊那郡高遠町大字西高遠 1806 番地 ℡0265 (94) 2557							
発行年月日	西暦 2004 年 3 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
しせ跡 たかとおじょうせき 高遠城跡	ながのけん 長野県 かみいなぐん 上伊那郡 たかとおじょう 高遠町 大字 ひがしながたか 東高遠 大字 じょうせき 城跡	385	7270	35° 49' 54"	138° 03' 53"	平成 14 年 5 月 ～ 平成 15 年 12 月	372	史跡整備に伴う 遺構内容確認 登録有形文化財 高遠関保存修理事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
史跡 高遠城跡	包蔵地 城館跡	中世 近世		土塁 堀 竪穴状遺構		中近世の土器及 び陶磁器		

史跡高遠城跡試掘調査

史跡 高遠城跡二ノ丸・三ノ丸ほか

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年3月

編集・発行 高遠町教育委員会

印刷・製本 有限会社 しんこう社
長野県上伊那郡高遠町大字西高遠831

